

梅阪鶯里調査報告

打林 俊 (東京都写真美術館 インターン)

UCHIBAYASHI Shun
Intern, Tokyo Metropolitan Museum of Photography

■ 凡例

付属資料1 梅阪鶯里作品・関係資料リストについて

- ・ リストは、作品制作年の判明している作品を中心に年代順に並べ、制作年代不詳のものに関しては、制作年代が明らかであるものを中心に、表現傾向から推測を試みた。資料番号は筆者が便宜的に付したものである。
- ・ リストの技法の欄に見られる「GSP」は、ゼラチン・シルバー・プリントを示す。
- ・ リスト上のサイズの記載は縦×横、単位はミリとした。

付属資料2 『鶯里画集』目録について

- ・ 本リストは、『鶯里画集』の目録を目録番号に沿って番号の若い順に配列し直したものである。
- ・ 記述の仮名使いは原典に従った。
- ・ 制作年記載は、原典では基本的に漢数字で和暦が記載されているため、これを制作年記述として採用した。尚、四切/no.1のみは、和暦以外に算用数字で西暦が記されていたため、これは「その他記載2」とした。
- ・ 原典は縦書きであり、本リストでは横書きに改めたため、制作年記述の漢数字部分は読みやすさを考慮して算用数字に改めた。
- ・ 技法は、原典に記されているもののみリストに示し、技法名は原典の表記に従った。
- ・ 制作年・サイズは、原典に記されているもののみ、リストに示した。
- ・ 題名、制作年、技法以外の記述が原典に記されている場合、リストの「その他記載」に記した。
- ・ 題名、制作年、技法以外の記述が原典に2つ記されている場合がある。その場合、2つ目の記載事項は「その他記載2」に示した。
- ・ 四切の目録では、番号が付されていないものがあり、リスト上では「番記なし」と記した。
- ・ 半切の目録では、no.45からno.47は重複している。リスト上では、原典で上段に記されているものを先に示した。

付属資料3 梅阪鶯里関連年表について

- ・ 出生、養子、結婚、死亡に関する事実関係は、すべて戸籍謄本の記載事項に基づいて記述した。
- ・ その他の記載事項に関しては注記に出典を示した。

はじめに

梅阪鷺里（1900-1970）は、1920年代（大正10年頃）から盛んな活動を展開した「アマチュア」写真家の一人として知られる。1900（明治33）年3月7日に大阪市に父・徳次郎と母・フシの間に生まれ¹⁾、1910（明治43）年、10歳の時に父・徳次郎の兄弟である直七と、その妻まつとの養子となった²⁾。その後、1917（大正6）年に明星中学（現・明星高校）を卒業し、家業の株式仲買業を手伝う。この頃から写真を撮り始めたと伝えられ³⁾、1918（大正7）年に、大阪市南区日本橋にあった日本一藤井写真機店が主宰していたアマチュア写真団体の虹影倶楽部⁴⁾に入会したことが確認されている⁵⁾。ついで、1920（大正9）年に浪華写真倶楽部に入会し、同倶楽部で1928（昭和3）年頃まで活動を行っている⁶⁾。この間には、同倶楽部の例会や年次展、また、大正末から始まった日本写真美術展、日本写真大サロンといった、全国規模の公募写真展を通じて幅広い活動を行っていた⁷⁾。特にゴム印画⁸⁾を得意とし、ゴム印画による表現と高度な技術力は同時代に高い評価を受けていた⁹⁾。以後、戦前までは作品を発表していたが、戦後は作品発表をほとんど行っていない¹⁰⁾。1970（昭和45）年3月16日に逝去している¹¹⁾。

これまで、梅阪鷺里は周辺の写真家とともに副次的に語られることがほとんどであった。例えば、1920（大正10）年代から昭和初期の浪華写真倶楽部の盛んな活動の動向が取り上げられる時に、梅阪の名前はしばしば登場する。しかし、梅阪の活動が単独で語られることはなかった。梅阪の作品が体系的に紹介、研究されているという印象は薄いのである。

しかし、「芸術写真」の時代において、注目すべき高い表現力を備えていた写真家の一人として、再評価を急がなくてはならない写真家であると考えている。そのため、筆者はこれまでに、公的機関の所蔵する梅阪作品106点の調査を実施してきた¹²⁾。その対象とした、公的機関に収蔵されている梅阪鷺里作品106点の内訳は以下の通りである。

東京都写真美術館 46点（内2点寄託）

横浜美術館 30点

大阪市立近代美術館建設準備室 19点

日本大学芸術学部 9点

東京工芸大学 2点

この内、東京工芸大学以外の機関のコレクションは、1980年代以降、各機関に収蔵されたものである¹³⁾。

調査の結果、年記を伴っていない作品が多数あること、106点のうち91点が「芸術写真」の時代に多用されたピグメント印画¹⁴⁾であることなどの理由から、梅阪の経歴や表現変遷を、これらの作品群と同時代の文献を通じて明らかにするには、不十分であることを痛感していた。なぜならば、年記を伴った作品は全体の半数以下で、それらは1927（昭和2）年から1935（昭和10）年の9年間に集中しており、作品制作を行っていた期間の3分の1にとどまっている。1935（昭和

10) 年以降の年記を伴ったものは13点しか確認されないため、梅阪の制作活動を時系列に沿って万遍なく追うことは難しい。そこで、第六の所蔵者、すなわち御遺族に着目した。表現の変遷、写真家としての経歴を体系化するためにも、作品、関連資料が残されている可能性が高い梅阪家の調査を行わせて頂きたいと考え、梅阪和子氏のご協力の下、調査を実施することが可能になった。

調査の結果、写真家・梅阪鶯里の経歴を体系的に語るうえで、きわめて重要な作例や資料の数々を新たに発見することができた。そこで、本稿では梅阪家調査において確認された作例、資料について簡単な報告を述べておくこととしたい。

I. 梅阪家調査について

日本写真史において「芸術写真」は1980年代以降、再評価が進んだ。しかし、近年の研究でも指摘されているように¹⁵⁾、作品の表現変遷について枢要な骨格を築き得た一方で、一次史料の発掘は十分には進んでいない。「芸術写真」を構築した写真家の多くはアマチュア写真家であったため、生業でない仕事は、作品に明確な価値を見出しにくい。これは作品が大切にされない可能性を含んでいる。写真家の没後に作品が遺品とともに処分されてしまったり、あるいは押入れや物置の奥に眠っていて日の目を見る可能性が低いのである。

これに対して、梅阪の作品は、幸いなことにそのほとんどが公的機関の収蔵品となった。それ以外に梅阪家に残されたものとしては、《雨後》を含む作品数点の存在が知られていた。しかしながら、梅阪家に伝承された作品の正確な数量に関して、明確な実態は明らかではなかった。作品の正確な数量と関連資料の有無を確認するため、梅阪鶯里のご遺族に連絡を取りたいと考えた。

そこで、当館の梅阪鶯里作品の収集に関わった金子隆一専門調査員を通して、梅阪家と連絡を取った。梅阪家所蔵作品の現所蔵者は梅阪鶯里のご長女にあたる梅阪和子氏である。電話によるヒアリングにより、正確には把握していないが、作品がおそらく10点程度あるという回答を得た。その後、和子氏にご協力を得、梅阪家調査を行わせて頂いた。

調査は2008年1月から9月にかけて4度実施し¹⁶⁾、2008年1月に実施した調査には、金子隆一専門調査員の同行を得た。

梅阪家に伝承された作品は帙及び印画紙の箱に納められた状態で、4箱確認された。内訳は写真276件、梅阪鶯里の写真家としての経歴に関わる写真以外の関連資料が29件であった。書簡、日記、書き付けなどの直筆資料および乾板、フィルムなどのネガは確認されなかった。写真作品、資料の内、ゴム印画によるものは109点で、割合は30.1%である。公的機関の所蔵品を加えた382件に占めるゴム印画の割合は、185点で、39.6%に上る¹⁷⁾。松本徳彦氏が、1980年代に『日本写真全集』(小学館、1986年)の編集に伴う梅阪作品の調査の際には確認されて

いなかった作品も、今回新たに確認されている。これらは10年ほど前に梅阪家が建替えを行った際に押入れから見つかったものだという。和子氏によれば、今回確認の作品、資料のうち、印画紙の箱に収められた2箱が新たに見つかったものである。鶯里の没後、本調査で確認された作品、資料は帙、及び印画紙の箱にまとめられ、妻の梅阪つた氏、そして和子氏によって自宅の押入れに保管されてきたという。

梅阪と同時代に活躍していたアマチュア写真家で、作品や関連資料が多数確認されている写真家は少なく、このように多数の作品や資料が確認されたこと自体が目玉に値する。しかし、単純に調査母体となる作品、資料の数が増したのみではなく、これまで梅阪との関係が指摘されてこなかった表現傾向の作品や、1935（昭和10）年以降の年記を伴った作品、晩年に制作された作品が確認されている。

II. 調査報告

本調査によって確認された作品、資料については、資料1にリストとしてまとめた¹⁸⁾。

梅阪家に伝承された作品は帙、箱に収められていた。帙は2つであり、これらには、朱色で同様の筆跡による「鶯里画集」と書かれていた（fig.1）。和子氏によれば、この『鶯里画集』は戦後、梅阪鶯里自身によって製作されたものである。1920（大正10）年代から制作された作品を、白い台紙に透明のプラスチック製コーナーで留め、番号が付されていた。このコーナーの酸化による変色等の劣化は、目視のレベルではほとんど見られなかった。また、四切、半切ともに鶯里が作成した手書きの目録¹⁹⁾が付属している（付属資料2）。目録は罫線の入った紙にペンで書かれたもので、この目録には四切47点、半切52点が所収されていた。筆者が確認した時点では、画集に所収されていた作品以外の写真も一緒に帙に収められていた。また画集の台紙のみのものも見受けられた。また、『鶯里画集』がもう1つ存在していた可能性がある。梅阪家の家族アルバムの中に、鶯里が『鶯里画集』と考えられる帙を広げて作品を見ている写真（fig.2）がある。この写真中に鶯里が見ているものを含め、3冊の帙が写っているため、当初は3つあった可能性も考えられる。画集の目録によれば、本画集の中には《苔寺》（四切/no.10）、《白樺林》（四切/no.12）、《山茶花》（四切/no.14）、《五龍》（四切/no.15）のように、1960年代後半（昭和40年代前半）の制作を示す記述を伴ったものも含まれている²⁰⁾。このうち、《五龍》（資料no.323）は15の番号が付された台紙に張られた状態で確認された。同作は「昭和四十一年」の年記を伴っており、晩年までゴム印画によって作品を制作していたことが明らかになった。

しかし一方で、横浜美術館所蔵の《題不詳（淡雪）》（資料no.89）と《雪の朝》（資料no.90）の関係性²¹⁾のように、同一ネガを用いて、左右を反転させたり、トリミングを施して、後年に別作品を制作している例が散見された。こうした事実は、梅阪鶯里の作品は撮影時期と制作

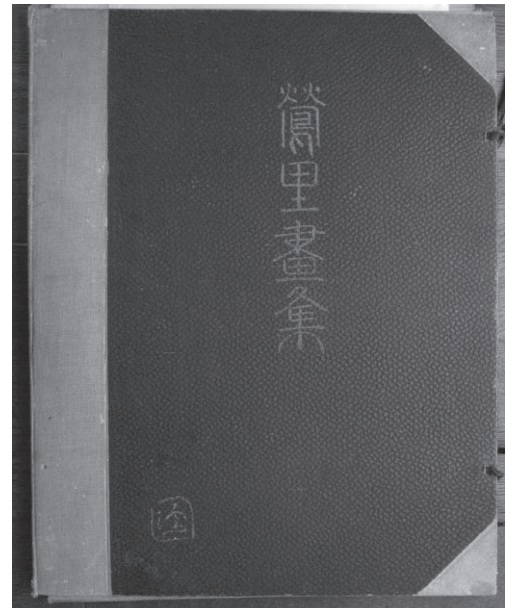


fig.1 『鶯里画集』（四切）の帙 梅阪家蔵



fig.2 『鶯里画集』を見る梅阪鶯里 梅阪家家族アルバムより



fig.3-1 《雪山・アタゴ》 ゴム印画
1929年頃 東京都写真美術館蔵

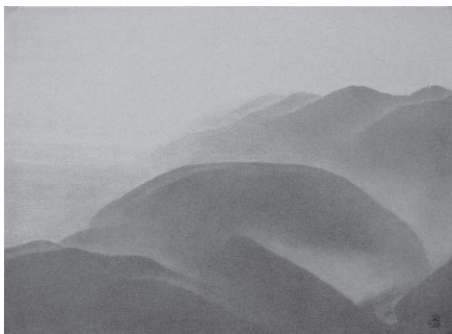


fig.3-2 《題不詳（山岳風景）》 ゴム印画
1929年頃 梅阪家蔵



fig.4 《題不詳（葉）》 サイアノタイプ
1930年代-40年代頃 梅阪家蔵

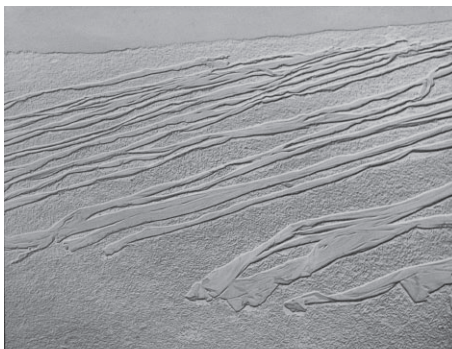


fig.5 《題不詳（風景）》 GSP
1930年代-40年代頃 梅阪家蔵

時期が著しく異なるものが他にも存在する可能性を示している。

その他、明暗の反転したゼラチン・シルバー・プリントが10点確認された。この内、《題不詳（妙高）》（資料no.168）、《題不詳（コスモス）》（資料no.336）の2点は、裏面に図様と対応する書き起こしが見られる。また、裏面からの書き起こしは見られないが、画面サイズが陽画の作品（資料no.213）と対応する《題不詳（柿）》（資料no.214）の3点は、紙ネガである可能性が考えられる。その他に、当館所蔵の《雪山・アタゴ》（資料no.103）（fig.3-1）の明暗反転像（資料no.102）（fig.3-2）が確認された。梅阪家所蔵の、明暗反転した画像が正像であり《雪山・アタゴ》はネガ像であることが判明した²²⁾。

また、本調査ではフォトグラムによる作品が確認されている。ゼラチン・シルバー・プリントではなく、サイアノタイプによるフォトグラムも確認された（fig.4）。サイアノタイプによるフォトグラムの他に、レリーフフォト²³⁾も6点確認された（fig.5）。フォトグラム、レリーフフォトといった技法は「新興写真」の時期以降に表現技法として用いられた技法である。これまで、梅阪の作品に「新興写真」の影響は指摘されていなかったが、「新興写真」の表現の影響を受けていた可能性が出てきた。

関連資料については、写真家としての活動に関する賞状が22点確認された。浪華写真倶楽部や、全国規模の公募展での経歴を裏付ける資料と言える。また、同時代資料には表れない経歴を示す賞状も確認されている。とりわけ、虹影倶楽部での活動に関する賞状は、初期の写真家としての経歴を明らかにとする上での重要な資料となる。この他、梅本里一、梅村松山と記名された、虹影倶楽部発行の賞状が各1点確認された。

以上、梅阪家調査において確認された資料の内、特筆すべき資料を挙げた。その他作品、資料の個々の紹介は、点数が膨大なものになるため、機会を改めたい。

また、和子氏のご好意のもとで、梅阪鶯里（本名・梅吉）の戸籍謄本を見せて頂くことができた。戸籍謄本の記載事項から、生没年月日がこれまで知られていたものとは異なることが判明した。これらに基づき、年表を作成した（付属資料3参照）。

III. 調査を終えて

梅阪家における鶯里の作品・資料調査を行い、これまで公的機関の所蔵品として確認されていた既知の106点に比べて実に2.5倍以上の点数の写真作品、資料が確認された。この中には、年記を伴った作品も多くあり、公的機関の収蔵品や同時代資料では確認されなかった1935（昭和10）年以降の年記を伴った作品も多数見られた。また、初期の制作活動を知りえる作品・資料や、これまでほとんど把握されていなかった戦後に制作された作品が確認されたことは、本調査の大きな収穫である。これらの作品を精査することによって、公的機関に収蔵さ

れた作品に加えれば、表現の変遷をたどり得る可能性が生じたと言える。加えて、題不詳、制作年不詳の作品についても、今回の調査で存在が明らかになった『鷺里画集』の目録によって、今後明らかにすることが可能なものがさらに増えるであろう。

また、同目録から、晩年までゴム印画によって作品を制作していたことが明らかになった。ゴム印画は、1930（昭和5）年頃を境に急速に広まった「芸術写真」の後に続く表現動向である「新興写真」の時代においてはほとんど用いられることがない印画技法であった。そのため、梅阪の写真家としての経歴は1930年代以降、明確なことが判明していなかったが、ゴム印画を中心とした作品制作を行っていたことになる。しかし、主としてゴム印画による作品を晩年まで制作していたことが明らかになった一方で、2つの新たな問題も生じてきた。1点目に、撮影年と制作年が異なる作品が散見された点である。これは、現段階では、実際にどの程度存在するのか明確ではない。しかし、梅阪の表現変遷を追う上で念頭に置かなければならない点であろう。2点目に、1950年代後半から1960年代前半（昭和30年代）の年記を伴った作品が、本調査で確認されなかった点である。現段階では、この時期の活動の実態を示す作品や資料が発見されていない。今後、梅阪の作品を個々に分析することによって、この2点の問題について考察することが筆者の課題となるに違いない。また、それらを考察することによって、制作年代不詳の作品についても制作年代を特定できる可能性が出てくるのではないだろうか。

註：

- 1) 1910年に養子となっており、正確な出生地は確認できなかった。現在確認することのできる梅阪の戸籍謄本による本籍は大阪市東淀川区東淡路四丁目二十六番となっている。
- 2) 戸籍謄本記載による。
- 3) 「写壇フース・フー」『アサヒカメラ』1926年10月号、p.407に「十年前より斯道〔写真〕の研鑽に志し」と記されていることから、1916年頃から写真を撮り始めたと考えられる。
- 4) 同倶楽部の主幹で、日本一藤井写真機店の店主であった藤井藤次郎は写真材料商組合を組織し、組長を務めていた人物である。後に、米谷紅浪とともに、全関西写真連盟の設立を主唱し、同連盟の委員となった。米谷紅浪とも親しい人物であったと考えられる。（越智修・福田静雄（監）『全関西写壇50年史』、全日本写真連盟関西本部、1976年、p.320参照）
- 5) 田中翔介（編）『関西写真家たちの軌跡100年』、関西写真家たちの軌跡展実行委員会、2007年、p.169
- 6) 前掲書、『関西写真家たちの軌跡100年』、p.169
- 7) 1926年に開催された第1回日本写真美術展で第1部第1科推薦3席、日本写真サロンで特選1席、翌27年に開催された第2回日本写真美術展で第1部第1科推薦1席（文部大臣賞）、第1回国際写真サロンで入選、第2回日本写真大サロンで特選を受賞している。
- 8) ピグメント印画法の1つ。重クロム酸カリとアラビアゴムの混合液に水彩絵の具を加えた感光性溶液を紙に塗布し、日光で焼き付ける。光の当たり具合に比例して混合液が硬化し、これを水に浸けて硬化しなかった

部分を洗い流す。一度の工程では十分な濃度が得られないため、この工程を数度繰り返す。また、水に浸している間に不要な部分をブラシなどでこすり落すことも可能であった。

- 9) 例えば、1926年の第1回日本写真サロンで特選を受賞した《芦》は、審査員であった秋山轍輔や福森白洋がゴム印画の技術力を賞賛している。この他にも、梅阪の作品に対する評価を概観すると、ゴム印画の技術力を賞賛する評価が多く見られる。
- 10) これまで、戦後には1968(昭和43)年に日本写真家協会主催で開催された「写真100年展」に《雨後》、《芍薬》、《炎天》の3点を出品したことが確認されていた。また、『鶯里画集』の目録に《妙高》(半切/no.6)が「戦後浪華写真倶楽部展」と記されており、戦後に発表された可能性を示している。
- 11) 戸籍謄本記載による。
- 12) 公的機関の所蔵する梅阪作品についての論考は拙稿、「梅阪鶯里考—日本写真美術展出品作品を中心に」『日本写真芸術学会誌』17巻1号、2008年、pp.27-41を参照されたい。
- 13) 東京工芸大学所蔵の所蔵品は、東京工芸大学の前身である東京写真専門学校教授であった小野隆太郎(1885-1965)の旧蔵資料に含まれていたとされ、小野と梅阪の間で直接授受のあった作品であると考えられる。
- 14) 「芸術写真」の時代に多用された絵画的な雰囲気を得るために用いられた、顔料(ピグメント)により画像を形成する印画技法。ゴム印画、オイル印画、ブロムオイル印画、カーボン印画などが代表的なピグメント印画法である。
- 15) 緒川直人、「アマチュア写真家野々村藤助と明治30年代写真史の再検討」『文化資源学』5号、2006年、p.63参照
- 16) 2008年1月29日、2008年2月28日、2008年5月17日、2008年9月20日の4度にわたって実施した。
- 17) 付属資料1に示した作品数に、梅阪家において確認された、自製のアルバム5冊に収められた90点のゼラチン・シルバー・プリントを加えた467点を総数とした。
- 18) リストの順序に関しては、凡例を参照。また、梅阪の経歴に沿って、浪華写真倶楽部以前の時代、浪華写真倶楽部時代、銀鈴社時代、「サロン」時代、戦後、その他に大別した。また、写真館時代と考えられる写真、特殊技法による写真は現段階では制作年代が判然としないため、これらとは別項目を設けた。

また、『鶯里画集』のリストを整理し、資料2に示した。目録番号、題名、技法、その他記載1、2の記述に関しては、鶯里画集リストの記載に従った。制作年のみは、読み易さを考慮して漢数字を算数字に改めた。

- 19) 作品の裏書き等の記述と比較すると、梅阪の直筆である可能性が高い。また、梅阪和子氏によれば、おそらく鶯里の筆跡であり、鶯里以外の人物が目録を制作した可能性は低いということであった。
- 20) このうち、《五龍》(資料no.323、ゴム印画、221×291mm)は、『鶯里画集』四切/no.15の台紙に張られた状態で帙に収められていた。
- 21) 《題不詳(淡雪)》は昭和3年の年記が伴っており、《雪の朝》は昭和18年の年記が伴っている。図様から、この2点は同一のネガ、あるいは同時期に撮影されたネガから制作されており、ネガを左右反転させ、トリミングを施している。
- 22) 尚、資料no.101、102のイメージは、当館所蔵の《題不詳(山岳風景)》(資料no.100)の右上部分と図様が対応していることが本調査により確認された。
- 23) ネガ原板から、密着焼付けによりポジ像の原板を作成する。これとネガ原板をややずらして重ね、輪郭の食い違いを生じさせた状態で印画を行い、レリーフ(浮彫)調の効果を得る表現技法である。

■ 付属資料1 梅阪鷺里作品・関係資料リスト
梅阪鷺里作品リスト I. 浪華写真倶楽部以前

No.	資料名	制作年	技法	サイズ	備考	所蔵
1	《湯本の雨・修善寺にて》	1921年	オイル印画	266×200	イメージ右下にサイン・年記	横浜美術館

梅阪鷺里作品リスト II. 浪華写真倶楽部時代 1920-1927年

2	《田家ノ雪》	1922年	プロムオイル印画	365×280	イメージ右下にエンボス 鷺里画集(半切)目録no.3のコピー付属	横浜美術館
3	《雪国》	1922年頃	プロムオイル印画	265×400	イメージ左下にエンボス	梅阪家
4	《雪国・ソリ》	1922年頃	ゴム印画	384×413	イメージ左下にサイン 鷺里画集(半切)目録no.23のコピー付属	横浜美術館
5	題不詳(冬の明科)	1920年-1926年頃	ゴム印画	182×267		横浜美術館
6	《越路の初冬》	1923年頃	GSP	153×216		梅阪家
7	《越路の初冬》	1923年	ゴム印画	274×406	イメージ左下にサイン 鷺里画集(半切)目録no.27のコピー付属	横浜美術館所蔵
8	《越路の初冬》	1932年	ゴム印画	262×402	イメージ右下にサイン	
9	題不詳(雪道)	1920年-1927年頃	GSP	122×170	イメージ左下にサイン・年記	
10	題不詳(雪道)	1920年-1927年頃	GSP	108×134	薄茶色の紙に貼り込み	大阪市立近代美術館建設準備室
11	《雨の温泉場》	1920年-1926年頃	オイル印画	153×108	裏面に「オイルプリント」の書き込み	梅阪家
12	《雨の温泉場》	1920年-1926年頃	オイル印画	255×184		東京都写真美術館
13	《雪の花・信州穂高村》	1923年頃	ゴム印画	200×282	イメージ左下にサイン 鷺里画集(四切)目録no.2のコピー付属	横浜美術館
14	題不詳(雪の疎林)	1920年-1927年頃	GSP	108×151		梅阪家
15	題不詳(雪の疎林)	1920年-1927年頃	GSP	101×128		梅阪家
16	《冬の黒姫山麓》	1920年-1928年頃	ゴム印画	155×107	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
17	《冬の黒姫山麓》	1920年-1928年頃	プロムオイル印画	383×241	イメージ左下にエンボス 黒い台紙に貼り込み	梅阪家
18	《因ノ島》	1924年	ゴム印画	316×398	鷺里画集(半切)目録no.4のコピー付属	横浜美術館
19	題不詳(港湾風景)	1920年-1926年頃	ゴム印画	258×294		梅阪家
20	題不詳(河川風景)	1920年-1927年頃	GSP	150×225	イメージ右下にサイン	梅阪家
21	題不詳(河川風景)	1920年-1928年頃	ゴム印画	305×410	イメージ左下にエンボス	梅阪家
22	《煙の都》	1924年	ゴム印画	304×405	イメージ右下にエンボス 鷺里画集(半切)目録no.8のコピー付属	横浜美術館
23	題不詳(山科二テ)	1920年-1927年頃	プロムオイル印画	104×143		東京都写真美術館
24	題不詳(疎林風景)	1920年-1928年頃	プロムオイル印画	274×359	イメージ左下にエンボス	梅阪家
25	題不詳(疎林風景)	1920年-1928年頃	ゴム印画	300×420	イメージ右下にエンボス	梅阪家
26	題不詳(疎林風景)	1932年	ゴム印画	298×418	イメージ右下にサイン・年記	東京都写真美術館
27	題不詳(山道)	1920年-1927年頃	ゴム印画	231×278	イメージ左下にサイン	梅阪家
28	《山岳の雨》	1925年	ゴム印画	404×512	イメージ右下に印章	横浜美術館
29	題不詳(山岳風景)	1925年頃	ゴム印画	203×279		梅阪家
30	《新緑》	1925年頃	ゴム印画	334×413	イメージ左下にエンボス 裏面に「新緑」梅阪鷺里」の書き込み	梅阪家
31	《夜網》	1926年	ゴム印画	395×530	イメージ右下に印章	横浜美術館
32	《湖畔ノ秋》	1926年	ゴム印画	305×410	イメージ右下にサイン・年記 裏面に「コム湖畔ノ秋 梅阪鷺里」の書き込み	梅阪家

No.	資料名	制作年	技法	サイズ	備考 I	所蔵
33	《夜の温室》	1920年 - 1926年頃	ピグメント印画	207×288	鷺里画集 (四切) 目録no.25のコピー付属	横浜美術館
34	《夜の温室》	1920年 - 1926年頃	ゴム印画	199×265	イメージ右下にエンボス	梅阪家
35	《疎林》	1920年 - 1927年頃	ゴム印画	198×266	イメージ右下にサイン	梅阪家
36	《疎林》	1920年 - 1927年頃	ゴム印画	196×294	イメージ左下にサイン	日本大学芸術学部
37	《霧》	1920年 - 1928年頃	プロムオイル印画	280×366	鷺里画集 (四切) 目録no.18のコピー付属	東京都写真美術館所蔵
38	題不詳 (疎林風景)	1920年 - 1928年頃	プロムオイル印画	280×392	イメージ右下にエンボス	梅阪家
39	《木立・信州》	1920年 - 1928年頃	ゴム印画	416×298	イメージ右下にエンボス	横浜美術館
40	《午後・生駒石切・ポスト》	1920年 - 1927年頃	ゴム印画	137×81	鷺里画集 (半切) 目録no.46のコピー付属	東京都写真美術館所蔵
41	題不詳 (風景)	1920年 - 1927年頃	プロムオイル印画	367×278	イメージ左下にサイン	梅阪家
42	《葛城川の夏》	1920年 - 1927年頃	ゴム印画	207×288	イメージ右下にサイン	横浜美術館
43	《伊吹山麓・小川》	1920年 - 1927年頃	GSP	152×106	鷺里画集 (四切) 目録no.31のコピー付属	大阪市立近代美術館建設準備室
44	《伊吹山麓・小川》	1920年 - 1927年頃	ゴム印画	424×257		東京都写真美術館
45	題不詳 (湖畔風景)	1920年 - 1928年頃	ゴム印画	310×412	イメージ右下にサイン	梅阪家
46	《穂高川・晩秋》	1927年	ゴム印画	192×257	イメージ右下にサイン 裏面に年記	日本大学芸術学部
47	《穂高川・晩秋》	1927年頃	ゴム印画	199×276	鷺里画集 (四切) 目録no.24のコピー付属	梅阪家
48	題不詳 (疎林)	1920年 - 1928年頃	プロムオイル印画	250×350	イメージ右下にエンボス	梅阪家
49	題不詳 (鈴川ニテ)	1920年 - 1928年頃	ゴム印画	102×149	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
50	題不詳 (冬枯)	1927年頃	ゴム印画	293×394	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
51	《冬・松本郊外》	1927年頃	ゴム印画	107×157	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
52	《冬・松本郊外》	1927年頃	ゴム印画	107×157	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
53	題不詳 (風景)	1927年	ゴム印画	205×294	裏面に年記	東京都写真美術館
54	《曉霧》	1927年	ゴム印画	334×476	イメージ右下にサイン・年記	東京都写真美術館
55	題不詳 (朝顔)	1927年	ゴム印画	425×318	イメージ右下にサイン・年記	東京都写真美術館
56	題不詳 (竹林)	1920年 - 1927年頃	ゴム印画	310×390	鷺里画集 (半切) 目録no.9のコピー付属	横浜美術館
57	題不詳 (竹林)	1920年 - 1927年頃	プロムオイル印画	186×366		東京都写真美術館
58	題不詳 (辨)	1927年	ゴム印画	317×413	イメージ左下にサイン・年記	
59	題不詳 (炎天)	1927年頃	GSP	197×244		
60	題不詳 (港湾風景)	1927年	ゴム印画	334×408	イメージ左上にサイン・年記	
61	題不詳 (子ども)	1927年	プロムオイル印画	190×250	イメージ左下にサイン・年記	

梅阪鷺里作品リスト III. 銀鈴社時代 1928-1930年

62	《戸隠街道》	1928年	プロムオイル印画	264×412	イメージ左下にエンボス	横浜美術館
63	《菊》	1928年	ゴム印画	330×400	鷺里画集 (半切) 目録no.21のコピー付属	梅阪家
64	《菊》	1928年	ゴム印画	331×400	イメージ右下にサイン・年記	横浜美術館
65	《三保浦》	1936年	ゴム印画	295×405	鷺里画集 (半切) 目録no.16のコピー付属	梅阪家
66	題不詳 (波)	1928年	プロムオイル印画	332×495	イメージ左下にサイン・年記 鷺里画集 (半切) no.45	梅阪家

No.	資料名	制作年	技法	サイズ	備考	所蔵
67	題不詳(波)	1928年頃	プロムオイル印画	232×396	イメージ右下にエンボス	梅坂家
68	題不詳(波)	1928年頃	GSP	240×309	イメージ左下にサイン	梅坂家
69	題不詳(滝)	1928年	プロムオイル印画	528×374	イメージ左下にサイン・年記	梅坂家
70	題不詳(滝)	1929年	プロムオイル印画	561×342	イメージ左下にサイン・年記	東京都写真美術館
71	題不詳(滝)	1928年 - 1929年頃	GSP	297×214		梅坂家
72	題不詳(滝)	1928年 - 1929年頃	プロムオイル印画	558×376		梅坂家
73	題不詳(滝)	1928年 - 1929年頃	GSP	182×130		大阪市立近代美術館建設準備室
74	題不詳(滝)	1928年 - 1929年頃	GSP	208×153		梅坂家
75	題不詳(紅葉)	1928年 - 1929年頃	ゴム印画	242×300		梅坂家
76	題不詳(稲穂)	1928年	ゴム印画	290×395	イメージ右下にサイン・年記	梅坂家
77	《きび》	1933年	ゴム印画	318×415	1928年ころ撮影 イメージ左下にサイン・年記	大阪市立近代美術館建設準備室
78	題不詳(風景)	1928年	プロムオイル・ トランスファー	170×220 (228×275)	イメージ左下にサイン・年記	梅坂家
79	《風》	1928年	ゴム印画	210×282	イメージ右下にサイン・年記 鷲里画集(四切)目録no.29のコピー付属	横浜美術館
80	題不詳(川のある風景)	1928年	ゴム印画	108×157	イメージ左下にサイン・年記	東京都写真美術館
81	《吹雪・信越柏原ニテ》	1928年 - 1930年頃	ゴム印画	222×295	鷲里画集(四切) no.16	梅坂家
82	題不詳 (吹雪・信越柏原ニテ)	1928年 - 1930年頃	ゴム印画	169×250	イメージ左下にサイン	東京都写真美術館
83	題不詳(風景)	1928年 - 1930年頃	GSP	154×220	no.84のトリミングしたもの	梅坂家
84	題不詳(風景)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	305×342	イメージ左下にサイン no.83を左右反転させたイメージ	梅坂家
85	題不詳(雪の日)	1928年頃	ゴム印画	275×383	イメージ左下にサイン	梅坂家
86	題不詳(田園風景)	1930年	ゴム印画	343×522	イメージ左下にサイン・年記	梅坂家
87	題不詳(雪の朝)	1928年頃	GSP	130×181		梅坂家
88	題不詳(雪の朝)	1928年	ゴム印画	373×529	イメージ右下にサイン・年記	横浜美術館
89	《雪ノ朝》	1943年	ゴム印画	336×424	イメージ左下にサイン・年記 鷲里画集(半切)目録no.19のコピー付属	横浜美術館
90	題不詳(静物)	1920年 - 1928年頃	プロムオイル印画	344×274	イメージ左下にエンボス	梅坂家
91	題不詳(白椿)	1929年頃	GSP	113×159		梅坂家
92	《白椿》	1929年	ゴム印画	300×393	イメージ右下にサイン 鷲里画集(半切)目録no.29のコピー付属	横浜美術館
93	《鯉のぼり》	1929年	ゴム印画	306×388	イメージ左下にサイン・年記	東京工芸大学芸術学部
94	《鯉のぼり》	1929年	ゴム印画	300×390	イメージ左下にサイン 裏面に「鯉のぼり」の書き込み	大阪市立近代美術館建設準備室
95	《唐瓜》	1929年	ゴム印画	299×393	イメージ左下にサイン・年記	東京工芸大学芸術学部
96	《唐瓜》	1929年頃	ゴム印画	305×387	イメージ左上にサイン 鷲里画集(半切)目録no.28のコピー付属	横浜美術館
97	題不詳(菜の花)	1929年	ゴム印画	233×292	イメージ右下にサイン・年記	梅坂家
98	題不詳(菜の花)	1929年	ゴム印画	230×288	イメージ右下にサイン・年記	梅坂家
99	題不詳(海浜風景)	1929年頃	ゴム印画	286×381	イメージ右下にサイン	梅坂家
100	題不詳(山岳風景)	1929年	ゴム印画	138×538	イメージ右下にサイン・年記	東京都写真美術館
101	題不詳(山岳風景)	1929年頃	GSP	229×280		梅坂家
102	題不詳(山岳風景)	1929年頃	ゴム印画	216×298	イメージ右下にサイン	梅坂家

No.	資料名	制作年	技法	サイズ	備考	所蔵
103	《雪山・アタゴ》	1929年頃	ゴム印画	269×393	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
104	題不詳(雪山・アタゴ)	1929年頃	ゴム印画	265×394		日本大学芸術学部
105	題不詳(山岳風景)	1929年	ゴム印画	255×527	イメージ右下にサイン・年記	梅坂家
106	題不詳(山岳風景)	1929年	ゴム印画	256×528		横浜美術館
107	題不詳(砂丘)	1928年 - 1930年頃	ゴム印画	244×407	イメージ左下にサイン	梅坂家
108	《聖観音立像》	1929年	ゴム印画	413×196	イメージ右下に「聖観音立像写於法隆寺昭和四年」の書き込み	東京都写真美術館
109	題不詳(法隆寺壁画)	1929年頃	プロムオイル印刷画	403×296	イメージ左下にサイン	梅坂家
110	題不詳(法隆寺壁画)	1929年頃	GSP	313×256	ネガ像	梅坂家
111	題不詳(法隆寺壁画)	1929年頃	GSP	405×280	ネガ像	梅坂家
112	題不詳(法隆寺三尊像)	1929年頃	GSP	176×132 (304×255)		梅坂家
113	題不詳(法隆寺三尊像)	1932年	GSP	176×135 (222×150)	右下余白にサイン 裏面に「三二三 ペロナ」の書き込み	梅坂家
114	《三尊像・法隆寺》	1929年頃	プロムオイル印刷画	294×238	鷺里画集(四切) no.34	梅坂家
115	《中宮寺・額》	1930年	ゴム印画	343×313	イメージ左下にサイン・年記 イメージ左下に「本堂正面額縁写於中宮寺昭和五年」の書き込み	梅坂家
116	《中宮寺天寿国曼荼羅》	1929年 - 1930年	GSP	372×324	鷺里画集(半切) no.40	梅坂家
117	《中宮寺天寿国曼荼羅》	1930年	GSP	345×314	イメージ左下にサイン・年記 イメージ左下に「天壽国曼荼羅写於中宮寺昭和五年」の書き込み	梅坂家
118	《中宮寺如意輪観音》	1930年	プロムオイル印刷画	432×203	イメージ右下にサイン・年記 イメージ右下に「如意輪観音半跏像写於中宮寺昭和五年」の書き込み	梅坂家
119	《地藏菩薩像》	1930年頃	ゴム印画	271×100		梅坂家
120	《地藏菩薩像》	1930年	ゴム印画	278×111	イメージ右下にサイン・年記 イメージ右下に「地藏菩薩像於秋篠寺写昭和五年」の書き込み	東京都写真美術館
121	題不詳(法華寺十一面観音)	1932年頃	GSP	306×147		梅坂家
122	《法華寺十一面観音》	1932年	ゴム印画	391×287	イメージ左下にサイン・年記 イメージ右下に「十一面観音像於奈良法華寺写昭和七年」の書き込み	梅坂家
123	題不詳(仏像)	1928年 - 1932年頃	GSP	233×80		梅坂家
124	題不詳(仏像)	1928年 - 1932年頃	GSP	250×83		梅坂家
125	題不詳(地藏)	1928年 - 1932年頃	ゴム印画	273×243	イメージ左下にサイン	梅坂家
126	題不詳(仁王)	1928年 - 1932年頃	GSP	163×119	イメージ左下サイン	梅坂家
127	題不詳(瓦・葺の静物)	1930年	プロムオイル印刷画	208×281	イメージ左下にサイン・年記	東京都写真美術館所蔵
128	題不詳(梅)	1929年頃	ゴム印画	213×271	イメージ左下にサイン	東京都写真美術館所蔵

No.	資料名	制作年	技法	サイズ	備考	所蔵
129	《薬師寺月夜》	1930年	ゴム印画	244×528	イメージ右下下にサイン・年記 裏面に「薬師寺月夜 梅阪鸛里 1930」の書き込み	東京都写真美術館寄託

梅阪鸛里作品リスト IV. 「サロン」の時代 1931-1934年

130	《舞妓》	1931年頃	ゴム印画	236×228	鸛里画集(四切) 目録no.35のコピー付属	横浜美術館
131	《芍薬》	1931年	ゴム印画	293×241	イメージ右下下にサイン・年記 裏面に「芍薬」の書き込み	東京都写真美術館寄託
132	題不詳(菊)	1931年 - 1934年頃	GSP	165×119		梅阪家
133	《水仙》	1931年	ゴム印画	250×190	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
134	題不詳(水仙)	1931年 - 1934年頃	GSP	250×252		梅阪家
135	題不詳(水仙)	1931年 - 1934年頃	GSP	167×119	ピンク色の紙に貼り込み	梅阪家
136	題不詳(バラ)	1931年 - 1934年頃	GSP	232×250		梅阪家
137	《満月》	1932年	ゴム印画	319×393	イメージ右下下にサイン・年記 鸛里画集(半切) no.32	梅阪家
138	《雨後》	1933年	ゴム印画	384×348	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
139	題不詳(雨後)	1933年頃	ゴム印画	258×427	イメージ右下下にサイン	梅阪家
140	題不詳(菖蒲)	1933年	ゴム印画	267×334	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
141	題不詳(菖蒲)	1933年	ゴム印画	266×335	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
142	題不詳(紫陽花)	1932年	ゴム印画	298×361	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
143	題不詳(椿)	1933年	ゴム印画	305×342	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
144	題不詳(風景)	1932年	ゴム印画	204×286	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
145	題不詳(桜)	1934年	ゴム印画	240×300	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
146	題不詳(桜)	1934年	ゴム印画	240×300	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
147	題不詳(紫陽花)	1934年	ゴム印画	243×298	イメージ左下にサイン・年記	東京都写真美術館
148	題不詳(紫陽花)	1934年	ゴム印画	120×165	イメージ右下下にサイン	大阪市立近代美術館建設準備室
149	題不詳(紫陽花)	1934年	プロムオイル印画	248×298	イメージ右中にサイン・年記	東京都写真美術館
150	題不詳(紫陽花)	1931年 - 1934年頃	GSP	255×304	イメージ右下下にサイン	梅阪家
151	題不詳(紫陽花)	1931年 - 1934年頃	GSP	255×311	イメージ右下下にサイン	梅阪家
152	題不詳(紫陽花)	1931年 - 1934年頃	GSP	214×282		梅阪家
153	題不詳(山茶花)	1931年 - 1934年頃	GSP	214×294		梅阪家
154	題不詳(山茶花)	1931年 - 1934年頃	ゴム印画	220×308		梅阪家
155	題不詳(山茶花)	1931年 - 1934年頃	ゴム印画	213×295	イメージ右下下にサイン	東京都写真美術館
156	題不詳(山茶花)	1931年 - 1934年頃	GSP	83×80		大阪市立近代美術館建設準備室
157	題不詳(雪・能勢口)	1934年	ゴム印画	321×413	イメージ右下下にサイン・年記	東京都写真美術館
158	題不詳(菊)	1935年	ゴム印画	239×296	イメージ右下下にサイン・年記	東京都写真美術館
159	題不詳(二見浦)	1935年	ゴム印画	331×402		東京都写真美術館
160	題不詳(二見浦)	1935年	ゴム印画	336×403	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家
161	題不詳(二見浦)	1935年頃	ゴム印画	259×332 (279×362)		梅阪家
162	《穂高》	1935年頃	GSP	120×165		大阪市立近代美術館建設準備室
163	《穂高》	1935年頃	GSP	220×304		梅阪家
164	《穂高》	1935年頃	ゴム印画	325×420	イメージ右下下にサイン 鸛里画集(半切) 目録no.34のコピー付属	横浜美術館
165	題不詳(山岳風景)	1935年	ゴム印画	114×160	イメージ右下下にサイン・年記	梅阪家

No.	資 料 名	制 作 年	技 法	サ イ ズ	備 考	所 蔵
166	題不詳(妙高)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	156×209	イメージ左下にサイン 鷺里画集(四切) no.9	梅阪家
167	題不詳(妙高)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	269×425	イメージ右下にサイン	梅阪家
168	題不詳(妙高)の紙ネガ	1935年 - 1945年頃	GSP	280×426	裏面に墨でレタッチ	梅阪家
169	題不詳(妙高)	1935年 - 1945年頃	GSP	225×291		梅阪家
170	題不詳(妙高)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	193×269	イメージ左下にサイン	梅阪家
171	題不詳(山岳風景)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	307×415		梅阪家
172	題不詳(山岳風景)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	238×415	イメージ左下にサイン	梅阪家
173	題不詳(風景)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	192×389	イメージ右下にサイン	梅阪家
174	題不詳(雪)	1935年	プロムオイル印画	257×334	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
175	題不詳(紅葉と影)	1934年 - 1940年頃	GSP	125×90		大阪市立近代美術館建設準備室
176	題不詳(紅葉と影)	1934年 - 1940年頃	GSP	207×157		梅阪家
177	題不詳(紅葉と影)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	285×210	イメージ右下にサイン	梅阪家
178	題不詳(桜と影)	1934年 - 1940年頃	GSP	275×436		梅阪家
179	題不詳(苔寺)	1934年 - 1940年頃	GSP	125×173		大阪市立近代美術館建設準備室
180	題不詳(苔寺)	1934年 - 1940年頃	GSP	171×245		東京都写真美術館
181	題不詳(苔寺)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	247×392 (267×425)		梅阪家
182	題不詳(苔寺)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	247×391 (257×409)		梅阪家
183	題不詳(苔寺)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	248×391 (250×394)		梅阪家
184	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	GSP	115×165		梅阪家
185	題不詳(雪の庭)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	119×228	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
186	題不詳(雪の庭)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	221×291 (253×303)	ネガ像	梅阪家
187	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	GSP	161×213		梅阪家
188	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	GSP	154×221		梅阪家
189	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	GSP	240×309		梅阪家
190	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	253×412		東京都写真美術館
191	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	267×414		梅阪家
192	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	266×415	イメージ左下サイン	梅阪家
193	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	243×388	イメージ右下サイン	梅阪家
194	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	244×390		梅阪家
195	題不詳(苔)	1934年 - 1940年頃	GSP	350×257 (355×263)	ネガ像	梅阪家
196	題不詳(雪)	1934年 - 1940年頃	GSP	130×187		梅阪家
197	《田の雪》	1936年	ゴム印画	305×393	イメージ右下にサイン・年記 裏面に「田の雪」の書き込み	大阪市立近代美術館建設準備室
198	題不詳(雪)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	280×442 (305×468)		梅阪家
199	題不詳(雪)	1934年 - 1940年頃	ゴム印画	261×410	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
200	題不詳(富士)	1936年	ゴム印画	171×535	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
201	題不詳(紫陽花)	1936年初夏	ゴム印画	389×534	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家
202	題不詳(紫陽花)	1938年初夏	ゴム印画	308×535	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家

No.	資料名	制作年	技法	サイズ	備考	所蔵
203	題不詳(梅)	1937年頃	GSP	168×130	イメージ右下にサイン	大阪市立近代美術館建設準備室
204	題不詳(梅)	1937年頃	GSP	226×197		梅阪家
205	題不詳(梅)	1937年頃	GSP	176×130	イメージ左下にサイン ピンク色の紙に貼り込み	梅阪家
206	題不詳(梅)	1937年頃	GSP	143×165 (253×300)	余白右下にサイン	梅阪家
207	題不詳(梅)	1937年	ゴム印画	241×298	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
208	題不詳(桜)	1936年 - 1942年頃	ゴム印画	255×223	イメージ右下にサイン 鷺里画集(四切) 目録no.21のコピー付属	横浜美術館
209	題不詳(桜)	1935年 - 1945年頃	GSP	118×128		大阪市立近代美術館建設準備室
210	題不詳(梅)	1935年 - 1945年頃	GSP	215×149		梅阪家
211	題不詳(花)	1935年 - 1945年頃	GSP	300×232	イメージ左下にサイン	梅阪家
212	題不詳(柿の木)	1937年	ゴム印画	324×424	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
213	題不詳(柿)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	270×353	イメージ左下にサイン	東京都写真美術館
214	題不詳(柿)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	273×389 (293×403)		梅阪家
215	題不詳(柿)の紙ネガ	1935年 - 1945年頃	GSP	273×353 (279×390)		梅阪家
216	《白馬・楢》	1937年頃	ゴム印画	321×407	鷺里画集(半切) no.42	梅阪家
217	《桔梗》	1938年	ゴム印画	291×237	イメージ左下にサイン・年記 鷺里画集(四切) 目録no.26のコピー付属	横浜美術館
218	《桔梗》	1938年頃	ゴム印画	287×235		梅阪家
219	題不詳(桔梗)	1938年頃	ゴム印画	309×253	イメージ右下にサイン	梅阪家
220	題不詳(桔梗)	1938年	ゴム印画	214×155	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家
221	題不詳(桔梗)	1938年	ゴム印画	215×156	イメージ右下にサイン・年記	日本大学芸術学部
222	《百合》	1939年	ゴム印画	154×209	イメージ右下にサイン・年記 鷺里画集(四切) 目録no.8のコピー付属	横浜美術館
223	題不詳(湖畔風景)	1939年	ゴム印画	336×425	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
224	題不詳(湖畔風景)	1939年 - 1945年頃	ゴム印画	230×279		梅阪家
225	題不詳(湖畔風景)	1939年 - 1945年頃	ゴム印画	240×295 (282×230)		梅阪家
226	題不詳(湖畔風景)	1939年 - 1945年頃	ゴム印画	198×205	イメージ左下にサイン	梅阪家
227	題不詳(白馬)	1939年	ゴム印画	149×217	イメージ左下にサイン・年記	東京都写真美術館
228	題不詳(山岳風景)	1939年 - 1945年頃	ゴム印画	321×413	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
229	題不詳(戦場ヶ原)	1940年	ゴム印画	325×420	イメージ右下にサイン・年記	東京都写真美術館
230	題不詳(戦場ヶ原)	1940年頃	GSP	243×199		梅阪家
231	題不詳(男体山)	1935年 - 1940年頃	GSP	231×280		梅阪家
232	題不詳(男体山)	1935年 - 1940年頃	GSP	160×144	イメージ右下にサイン	梅阪家
233	題不詳(男体山)	1935年 - 1940年頃	GSP	269×205		梅阪家
234	《男体山》	1935年 - 1940年頃	ゴム印画	332×415	イメージ右下にサイン 鷺里画集(半切) 目録no.44のコピー付属	日本大学芸術学部
235	《男体山》	1935年 - 1940年頃	ゴム印画	305×418		梅阪家
236	題不詳(焼岳)	1935年 - 1940年頃	ゴム印画	425×296		梅阪家
237	題不詳(風景)	1935年 - 1940年頃	GSP	230×371		梅阪家
238	題不詳(野花)	1935年 - 1945年頃	GSP	255×305		梅阪家

No.	資 料 名	制 作 年	技 法	サ イ ス	備 考	所 蔵
239	題不詳(野花)	1940年	ゴム印画	199×279	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家
240	題不詳(野花)	1940年頃	ゴム印画	184×292	イメージ右下にサイン	梅阪家
241	題不詳(野花)	1943年頃	ゴム印画	234×382 (255×408)		梅阪家
242	題不詳(野花)	1943年頃	ゴム印画	305×428 (317×458)		梅阪家
243	題不詳(野花)	1943年	ゴム印画	303×428	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家
244	題不詳(すずき)	1940年 - 1945年頃頃	ゴム印画	268×342		梅阪家
245	《ひまわり》	1940年頃	ゴム印画	311×425	イメージ右下にサイン 鷲里画集(半切) 目録no.43のコピー付属	横浜美術館
246	《ひまわり》	1940年	ゴム印画	314×419	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家
247	題不詳(雪)	1935年 - 1945年頃	ゴム印画	280×440	イメージ右下にサイン	梅阪家
248	題不詳(池)	1940年 - 1945年頃	GSP	193×239	イメージ右下にサイン	梅阪家
249	題不詳(池)	1940年 - 1945年頃	GSP	224×309	イメージ右下にサイン	梅阪家
250	題不詳(池)	1940年 - 1945年頃	GSP	226×307	イメージ右下にサイン	梅阪家
251	題不詳(すずき)	1940年 - 1945年頃	GSP	267×350	イメージ右下にサイン	梅阪家
252	題不詳(川)	1940年 - 1945年頃	GSP	171×161		梅阪家
253	題不詳(川)	1940年 - 1945年頃	GSP	117×161		梅阪家
254	題不詳(川)	1940年 - 1945年頃	GSP	118×163		梅阪家
255	題不詳(川)	1940年 - 1945年頃	GSP	118×162		梅阪家
256	題不詳(川)	1940年 - 1945年頃	GSP	119×162		梅阪家
257	題不詳(草むら)	1940年 - 1945年頃	GSP	153×209		梅阪家
258	題不詳(草むら)	1940年 - 1945年頃	GSP	153×220		梅阪家
259	題不詳(草むら)	1940年 - 1945年頃	GSP	253×309		梅阪家
260	題不詳(三日月)	1941年	ゴム印画	279×223	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家
261	題不詳(松と月)	1935年 - 1941年頃	ゴム印画	252×512	イメージ右下にサイン	横浜美術館
262	《飛雪》	1941年	ゴム印画	299×365	イメージ右下にサイン 鷲里画集(半切) 目録no.10のコピー付属	日本大学芸術学部
263	題不詳(雪の疎林)	1941年	ゴム印画	257×424	イメージ右下にサイン・年記	東京都写真美術館
264	題不詳(菊花)	1942年頃	GSP	182×130	イメージ右下にサイン	梅阪家
265	題不詳(菊花)	1942年頃	GSP	299×206	イメージ右下にサイン	梅阪家
266	題不詳(菊花)	1942年	ゴム印画	420×282	イメージ右下にサイン・年記	東京都写真美術館
267	題不詳(菊花)	1942年	ゴム印画	420×282	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家
268	題不詳(菊花)	1942年頃	GSP	244×200		梅阪家
269	題不詳(菊花)	1942年頃	GSP	223×153		梅阪家
270	題不詳(菊花)	1942年頃	GSP	180×130	イメージ右下にサイン	大阪市立近代美術館建設準備室
271	題不詳(桜)	1943年頃	ゴム印画	312×234		梅阪家
272	題不詳(桜)	1943年	ゴム印画	200×288	イメージ右下にサイン・年記 鷲里画集(四切) 目録no.22のコピー付属	日本大学芸術学部
273	題不詳(桜)	1935年 - 1945年頃	GSP	113×159		梅阪家
274	題不詳(桜と屋根)	1935年 - 1945年頃	GSP	292×202 (309×202)		梅阪家
275	題不詳(コスモス)	1940年 - 1945年頃	GSP	313×232		梅阪家
276	題不詳(コスモス)	1940年 - 1945年頃	GSP	246×305		梅阪家
277	題不詳(コスモス)	1940年 - 1945年頃	ゴム印画	309×415		梅阪家

No.	資 料 名	制 作 年	技 法	サ イ ズ	備 考	所 蔵
278	題不詳(百合)	1940年 - 1945年頃	ゴム印画	214×150	イメージ右下にサイン	梅阪家
279	題不詳(白樺)	1943年頃	GSP	157×106		梅阪家
280	題不詳(白樺)	1943年頃	ゴム印画	430×288 (459×304)		梅阪家
281	題不詳(白樺)	1943年	ゴム印画	425×287	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
282	題不詳(白樺)	1943年頃	ゴム印画	161×109	イメージ左下にサイン	東京都写真美術館
283	題不詳(白樺)	1943年頃	ゴム印画	428×284		梅阪家
284	題不詳(白樺)	1945年 - 1966年頃	GSP	202×299		梅阪家
285	題不詳(白樺)	1945年 - 1966年頃	GSP	203×298		梅阪家
286	題不詳(白樺)	1945年	ゴム印画	155×208	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
287	題不詳(白樺)	1946年	ゴム印画	154×209	イメージ左下にサイン・年記	梅阪家
288	題不詳(白樺)	1966年頃	ゴム印画	155×248 (160×261)		梅阪家
289	題不詳(白樺)	1966年頃	ゴム印画	309×214		梅阪家
290	題不詳(白樺)	1966年	ゴム印画	198×297	イメージ左下にサイン 鷲里画集(四切) no.12	梅阪家
291	題不詳(白樺)	1945年 - 1966年頃	GSP	198×305 (253×305)	ネガ像	梅阪家
292	題不詳(白樺)	1945年頃	GSP	182×118	イメージ左下にサイン	大阪市立近代美術館建設準備室
293	題不詳(白樺)	1945年頃	GSP	245×160	イメージ左下にサイン	梅阪家
294	題不詳(白樺)	1945年頃	GSP	307×206 (307×212)		梅阪家
295	題不詳(白樺)	1945年頃	ゴム印画	217×138	イメージ左下にサイン 裏面に別イメージ	梅阪家
296	題不詳(白樺)	1945年頃	GSP	218×273		梅阪家
297	題不詳(白樺)	1945年頃	GSP	217×274		梅阪家
298	題不詳(けし)	1944年頃	GSP	234×216	イメージ右下にサイン	梅阪家
299	題不詳(けし)	1944年頃	GSP	306×253	イメージ右下にサイン	梅阪家
300	題不詳(けし)	1944年頃	GSP	105×75 (140×90)		梅阪家
301	題不詳(けし)	1944年頃	ゴム印画	294×234	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
302	題不詳(けし)	1944年	ゴム印画	300×241	イメージ右下にサイン・年記	梅阪家
303	題不詳(けし)	1944年頃	ゴム印画	290×237	イメージ右下にサイン	大阪市立近代美術館建設準備室
304	題不詳(葱)	1940年 - 1945年頃	GSP	277×354		梅阪家
305	題不詳(葱)	1940年 - 1945年頃	GSP	312×369		梅阪家
306	題不詳(葱)	1940年 - 1945年頃	GSP	211×119		梅阪家
307	題不詳(とうもろこし)	1940年 - 1945年頃	GSP	150×113		大阪市立近代美術館建設準備室
308	題不詳(とうもろこし)	1940年 - 1945年頃	GSP	298×236		梅阪家
309	題不詳(きび)	1935年 - 1945年頃	GSP	224×309		梅阪家
310	題不詳(すすき)	1935年 - 1945年頃	GSP	165×130		大阪市立近代美術館建設準備室
311	題不詳(すすきと鉄線)	1935年 - 1945年頃	GSP	183×242	イメージ右下にサイン	梅阪家
312	題不詳(すすきと鉄線)	1935年 - 1945年頃	GSP	206×253	イメージ右下にサイン	梅阪家
313	題不詳(すすきと鉄線)	1935年 - 1945年頃	プロムオイル印画	236×298		梅阪家
314	題不詳(雑木林)	1944年	ゴム印画	291×421	イメージ右下にサイン・年記	東京都写真美術館
315	題不詳(雑木林)	1940年 - 1945年頃	GSP	269×401		梅阪家

No.	資料名	制作年	技法	サイズ	備考	所蔵
316	題不詳(表)	1935年 - 1945年頃	GSP	212×299		梅阪家
317	題不詳(川)	1935年 - 1945年頃	GSP	264×353		梅阪家

梅阪鷺里作品リスト V. 戦後

318	題不詳(コスモス)	1949年頃	GSP	122×166		大阪市立近代美術館建設準備室
319	題不詳(コスモス)	1949年頃	GSP	151×189 (255×310)		梅阪家
320	題不詳(コスモス)	1949年	ゴム印画	244×293	イメージ右下にサイン・年記 鷺里画集(四切) no.32	梅阪家
321	題不詳(コスモス)紙ネガ	1949年	GSP	254×304	裏面に鉛筆でレタッチ	梅阪家
322	題不詳(戸隠山)	1952年	ゴム印画	317×424	裏面に年記	東京都写真美術館所蔵
323	《五龍》	1966年	ゴム印画	221×291	鷺里画集(四切) no.15	梅阪家
324	題不詳(五龍)	1966年頃	GSP	150×217		梅阪家
325	題不詳(都会風景)	1950年代 - 60年代頃	GSP	246×310 (256×310)		梅阪家
326	題不詳(都会風景)	1950年代 - 60年代頃	GSP	257×311		梅阪家
327	題不詳(都会風景)	1950年代 - 60年代頃	GSP	193×255		梅阪家
328	題不詳(都会風景)	1950年代 - 60年代頃	GSP	166×142 (279×240)	イメージ右下にサイン	梅阪家
329	題不詳(都会風景)	1950年代 - 60年代頃	GSP	218×221	イメージ右下にサイン	梅阪家
330	題不詳(うどん屋)	不詳	GSP	115×162		梅阪家
331	題不詳(静物)	不詳	GSP	137×113		梅阪家
332	題不詳(夕焼け)	不詳	GSP	152×235		梅阪家
333	題不詳(榛名山)	不詳	ゴム印画	172×284	裏面に別イメージ	日本大学芸術学部
334	題不詳(伊豆山)	不詳	ゴム印画	242×296	イメージ右下にサイン	東京都写真美術館
335	題不詳(浅間の麓)	不詳	ゴム印画	208×295	東京都写真美術館	梅阪家
336	題不詳(浅間の麓)	不詳	ゴム印画	209×248		梅阪家
337	題不詳(戸隠)	不詳	GSP	225×291		梅阪家
338	題不詳(戸隠)	不詳	GSP	148×248		梅阪家
339	題不詳(戸隠)	不詳	GSP	141×245		梅阪家
340	題不詳(戸隠)	不詳	GSP	60×183	茶色の台紙に貼り込み	梅阪家
341	題不詳(戸隠)	不詳	ゴム印画	201×404		東京都写真美術館
342	題不詳(戸隠)	不詳	ゴム印画	280×397		日本大学芸術学部
343	題不詳(風景)	不詳	GSP	154×245		梅阪家
344	題不詳(風景)	不詳	GSP	237×300		梅阪家
345	題不詳(雪山)	不詳	GSP	166×129 (183×131)		梅阪家
346	題不詳(雪山)	不詳	GSP	131×183		梅阪家
347	題不詳(神社)	不詳	GSP	309×226	イメージ右下にサイン	梅阪家
348	題不詳(縁側)	不詳	GSP	205×232		梅阪家
349	題不詳(庭の笹)	不詳	GSP	191×287		梅阪家
350	題不詳(しだれ桜)	不詳	GSP	119×167		梅阪家
351	題不詳(しだれ桜)	不詳	GSP	153×210		梅阪家
352	題不詳(雪と笹)	不詳	GSP	241×309	イメージ右下にサイン	梅阪家

No.	資 料 名	制 作 年	技 法	サ イ ズ	備 考	所 蔵
353	題不詳 (窓際の鉢植)	不詳	GSP	363×271	イメージ左下にサイン	梅阪家
354	題不詳 (藤棚)	不詳	GSP	113×158		梅阪家
355	アルバム	不詳	GSP		21点所収 《西芳寺五題》(6点)、《龍安寺五題》 《醍醐三宝院七題》、《落柿舎三題》	梅阪家
356	アルバム	不詳	GSP		11点所収 植物を扱った写真のみ所収	梅阪家
357	アルバム	不詳	GSP		20点所収 主に山岳、疎林を扱った写真を所収	梅阪家
358	アルバム	不詳	GSP		9点所収 主に風景を扱った写真を所収	梅阪家
359	アルバム	不詳	GSP		30点所収 風景を扱った写真が多いが、無傾向	梅阪家

梅阪鷺里作品リスト 写真館時代

360	題不詳 (女性像)	1933年 - 1945年頃	GSP	163×118		梅阪家
361	題不詳 (女性像)	1933年 - 1945年頃	GSP	164×122		梅阪家
362	題不詳 (女性像)	1933年 - 1945年頃	GSP	126×85 (156×116)		梅阪家
363	題不詳 (女性像)	1933年 - 1945年頃	GSP	162×120		梅阪家
364	題不詳 (女性2人像)	1933年 - 1945年頃	GSP	251×401		梅阪家
365	題不詳 (2人像)	1933年 - 1945年頃	GSP	250×149		梅阪家

梅阪鷺里作品リスト 特殊技法による写真

366	題不詳 (植物)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	163×114 (168×120)	イメージ左下にサイン フォトグラム	梅阪家
367	題不詳 (植物)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	168×121	イメージ右下にサイン フォトグラム	梅阪家
368	題不詳 (葉)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	162×114 (168×120)	イメージ右下にサイン フォトグラム	梅阪家
369	題不詳 (2枚の葉)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	163×114 (168×112)	イメージ右下にサイン フォトグラム	梅阪家
370	題不詳 (2枚の葉)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	292×211	フォトグラム	梅阪家
371	題不詳 (植物)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	260×310	イメージ左下にサイン フォトグラム	梅阪家
372	題不詳 (ねこじらし)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	246×304	イメージ左下にサイン フォトグラム	梅阪家
373	題不詳 (蛙)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	307×254	フォトグラム	梅阪家
374	題不詳 (3枚の葉)	1930年代 - 1940年代頃	サイアノタイプ	165×120 (216×166)	フォトグラム	梅阪家
375	題不詳 (葉)	1930年代 - 1940年代頃	サイアノタイプ	215×165 (397×328)	フォトグラム	梅阪家

No.	資料名	制作年	技法	サイズ	備考	所蔵
376	題不詳(葉)	1930年代 - 1940年代頃	サイアノタイプ	210×161 (302×220)	余白左下にサイン フォトグラム	梅阪家
377	題不詳(風景)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	253×311	台紙右下にサイン レリーフ・フォト 台紙に貼り込み	梅阪家
378	題不詳(風景)	1930年代 - 1940年代頃	GSP	295×410	レリーフ・フォト no.327の紙ネガと思われる	梅阪家
379	題不詳(風景)	1930年代 - 1940年代頃	ゴム印画	291×410 (291×432)		梅阪家
380	題不詳	1930年代 - 1940年代頃	GSP	143×189	レリーフ・フォト	梅阪家
381	題不詳	1930年代 - 1940年代頃	GSP	229×300	レリーフ・フォト no.323のトリミング違い	梅阪家
382	題不詳	1930年代 - 1940年代頃	GSP	252×328	イメージ右下にサイン レリーフ・フォト	梅阪家

梅阪鷺里関係資料

	資料名	年 記	備 考
1	《水仙》の台紙		no.136に付属していた台紙 国際写真サロン、Japan Photo Schau im Wiener Photo Club 1931 Japan Photo Schau Dezember 1931 Graz, Austriaのラベル付属
2	鷺里画集（四切）帙		
3	鷺里画集（半切）帙		
4	鷺里画集（四切）目録		
5	鷺里画集（半切）目録		
6	賞状	大正10年7月3日付	第10回浪華写真倶楽部展での《冬の明科》優選受賞状
7	謝状	大正10年10月27日付	第1回虹影倶楽部展において委員を務めたことに対する感謝状
8	賞状	大正11年2月13日付	大阪朝日新聞社主催第1回優秀印刷展覧会での《雪の朝》入選賞状
9	賞状	大正11年4月付	大阪毎日新聞社主催富士裾野撮影大会での《裾野の冬》銀賞5席受賞状
10	感謝状	大正11年5月付け	大丸呉服店主催文化博覧会への出品感謝状
11	賞状	大正11年7月16日付	第11回浪華写真倶楽部展での《汽車の窓から木曾路を》優選受賞状
12	賞状	大正12年4月20日付	大阪朝日新聞社主催第2回優秀印刷展覧会での《雪の花》入選賞状
13	賞状	大正12年7月12日付け	第12回浪華写真倶楽部展での《越路の初冬》特選受賞状
14	委託状	大正15年3月1日付	全関西写真連盟第1回撮影競技大会の審査員委託状
15	賞状	大正15年5月1日付	第1回日本写真美術展覧会の《夜網》入選賞状
16	賞状	大正15年5月1日付	第1回日本写真美術展覧会の《薫る風》入選賞状
17	賞状	大正15年5月28日付	第15回浪華写真倶楽部展での《湖畔の秋》特選受賞状
18	賞状	大正15年12月2日付	全関西写真連盟主催第1回写真大サロンでの《苜》入選賞状
19	賞状	大正15年12月2日付	全関西写真連盟主催第1回写真大サロンでの《苜》特選一席受賞状
20	賞状	大正15年12月2日付	大阪朝日新聞社より第1回写真大サロンの賞金贈呈状
21	賞状	大正15年12月2日付	全関西写真連盟主催第1回写真大サロンでの《春雨》入選賞状
22	賞状	昭和2年5月1日付	大阪毎日新聞社主催第2回日本写真美術展覧会での《山雨》入選賞状
23	賞状	昭和2年6月付	大阪毎日新聞社主催第2回日本写真美術展覧会での《曉靄》文部大臣賞受賞状
24	賞状	昭和2年11月10日付	全関西写真連盟主催第2回日本写真大サロンでの《炎天》特選受賞状
25	感謝状	昭和4年11月16日付	北陸研友会第1回展参考出品に対する感謝状
26	賞状	1932年5月付	朝日新聞社主催第6回国際写真大サロンでの《梅》の入選賞状（英文）
27	感謝状	昭和43年6月1日付	日本写真家協会主催「写真100年」展出品に対する感謝状
28	賞状	大正11年2月13日付	大阪朝日新聞社主催第1回優秀印刷展覧会賞状 梅村松山の記名
29	賞状	大正11年2月13日付	大阪朝日新聞社主催第1回優秀印刷展覧会賞状 梅本里一の記名
30	封筒	昭和41年2月10日	『浪』へよせた巻頭言の原稿が入っていたと考えられる封筒。浪華写真倶楽部蔵

■付属資料2 『鷺里画集』 目録

『鷺里画集』 目録 (四切)

目録番号	題名	制作年	技法	その他記載	その他記載2
1	湯元の雨	大正10年	オイルプリント	修美寺ニテ	1921年
2	雪ノ花			信州穂高村	
3	けし				
4	雪空	昭和2年		松本郊外	
5	冬の明科			檜詰 [?]	
6	冬ノ明科			四切	
7	白馬	昭和12年		八切	
8	百合	昭和14年		八切	
9	妙高			八切	
10	苔寺	昭和43年			
11	同	同			
12	白樺林	昭和41年		戸隠ニテ	
13	妙高				
14	山茶花	昭和41年			
15	五龍	昭和41年			
16	吹雪			信越柏原ニテ	
17	芍薬	昭和6年		第六回日本写真美術展無鑑査	
18	疎林				
19	雨ノ温泉場		オイルプリント		
20	紫陽花	昭和9年			
21	櫻			日本写真美術展無鑑査	
22	櫻				
23	紫陽花				
24	穂高川・晩秋				
25	夜ノ温室	大正 年			
26	桔梗	昭和13年			
27	梅花	昭和12年		日本写真美術展無鑑査	
28	菊	昭和10年			
29	凧	昭和3年		昭和4年銀鈴社展	
30	飛鳥地方ニテ	昭和5年			
31	葛城川の夏				
32	コスモス	昭和24年			
33	伊豆山				
34	三尊像			法隆寺	
35	舞妓			日本写真美術展無鑑査	
36	水仙	昭和2年		第一回国際写真サロン	
37	地藏菩薩	昭和5年		秋篠寺	
38	冬			松本郊外	
39	鈴川ニテ	昭和3年		銀鈴社展	
40	午後			ポスト	生駒石切
41	冬の黒姫山麓				
42	白樺				
43	雨ノ温泉場		プロモイル		
44	浅間山麓				
45	信濃路	昭和3年		銀鈴社展	
46	伊吹山麓			小川	
47	山科ニテ		プロモイル		
番記なし	白樺			戸隠	

『鶯里画集』 目録（半切）

目録番号	題名	制作年	技法	その他記載	その他記載2
1	炎天				第二回展特選
2	芦			朝日新聞第一回日本写真大サロン	特選 主席
3	田家ノ雪	大正11年	プロモイル	天弓会展	
4	因ノ島	大正13年		天弓会展	
5	戦場ヶ原	昭和15年			
6	妙高			戦後浪華写真倶楽部展	
7	鯉鱈	昭和5年		銀鈴社展	
8	煙ノ都	大正13年		天弓会展	
9	竹林		ゴム		
10	飛雪	昭和16年		(近江伊吹山麓)	銀鈴社展
11	田家ノ雪	昭和4年		銀鈴社展	
12	翁咲	昭和4年		銀鈴社展	
13	雪	昭和9年		(能勢口)	
14	きび	昭和3年		第三回銀鈴社展	
15	霧		プロモイル		
16	菊				
17	二見浦			無鑑査	
18	焼岳	昭和10年		毎日新聞日本写真美術展無鑑査	
19	雪ノ朝	昭和18年		(伊吹)	
20	冬			ヤハタ	
21	戸隠街道	昭和3年		銀鈴社展	
22	柿				
23	雪国			ソリ	浪展
24	菊花	昭和17年		(関学)	日本写真美術展無鑑査
25	雨後	昭和16年		(日光)	
26	霧			天弓会展	
27	越路ノ初冬	大正12年		第十二回浪展	特選一席
28	唐瓜	昭和5年		銀鈴社展	
29	白椿	昭和4年		銀鈴社展	
30	同				
31	戸隠				
32	満月	昭和7年			
33	雪			枯木	小鳥
34	穂高			日本写真美術展無鑑査	
35	戸隠				
36	雪山	昭和5年		アタゴ	銀鈴社展
37	法隆寺聖観音	昭和4年		昭和5年銀鈴社展	
38	中宮寺曼荼羅	昭和5年		昭和5年銀鈴社展	
39	中宮寺如意輪観音	昭和5年		昭和5年銀鈴社展	
40	中宮寺額	昭和5年		昭和5年銀鈴社展	
41	法華寺十一面観音	昭和7年			
41	田の雪				
42	白馬			檜	日本写真美術展無鑑査
42	雪の庭				
43	雨後			昭和四十三年六月明治百年展 昭和の芸術写真トシテNHK教育テレビ放送	(日本写真美術展無鑑査)
43	ひまわり				
44	男体山				
44	法隆寺				
45	三保浦	昭和3年		銀鈴社展	
45	雪の疎林	昭和16年			
46	木立			信州	
47	竹林		プロモイル		

■半切の目録では、no.41からno.45は重複している。

■付属資料3 梅阪鷺里関連年表

1900 (明治33)

3月7日 大阪市の北浜に父・徳次郎と母・フシの間に生まれる¹⁾。

1910 (明治43)

6月4日 10歳の時に父・徳次郎の兄弟である直七と、その妻まつ²⁾の養子となる²⁾。

1918 (大正7)

大阪市南区日本橋にあった日本一藤井写真機店が主宰していたアマチュア写真団体の虹影倶楽部に入会³⁾。
藤井写真機店の店主、藤井藤治郎は後に全関西写真連盟の発足を主唱し、理事となった人物である⁴⁾。

1920 (大正9)

10月 大阪時事新報社懸賞で《秋の朝》(四切・ブロムオイル印画)が2等を受賞する⁵⁾。梅阪が公に発表した初めての作品である。米谷紅浪は、大阪時事新報社懸賞を「写壇ルネサンス」の導火線となった展覧会と後に定義している⁶⁾。

1921 (大正10)

1月 15日発行の『写真界』(16巻1号)の新入会員紹介欄に、梅阪の入会が示されている。このことから、1920年12月から1921年1月頃の入会と考えられる⁷⁾。

7月 第10回浪華写真倶楽部展に4点(内オイルプリント2点・プロマイド紙2点)を出品。《冬の明科》(四切・プロマイド)が優選を受賞する⁸⁾。この年から浪華写真倶楽部展の会場の固定化が図られ、昭和26年まで大阪三越を会場とする。

10月 虹影倶楽部第1回展の委員を務める⁹⁾。

1922 (大正11)

2月 大阪朝日新聞社主催優秀印画展に《雪の朝》(サイズ・技法不詳)を出品¹⁰⁾。同展は、全関西地域の写真団体の作品を一同に会して展覧しようという意図で企画されたものである。1団体10点の規定で、41団体が参加した。この中から200点を選抜し、写真集が刊行された。この中には、梅阪の作品も所収されていたという¹¹⁾。

4月 大阪毎日新聞社主催大毎富士撮影会の「富士なきもの」の部で、《裾野の冬》が銀賞5席を受賞¹²⁾。

5月 大丸呉服店主催文化博覧会に出品(作品、技法等不詳)¹³⁾。

7月 第11回浪華写真倶楽部展に《汽車の窓から木曾路を》(四切・ブロムオイル印画)を出品、優選を受賞する¹⁴⁾。

9月 虹影倶楽部創立5周年を機に開催された第2回虹影倶楽部展に《朝霧》(サイズ・技法不詳)を出品、優選を

1) 戸籍謄本記載による。

2) 戸籍謄本記載による。「梅阪直七同人妻まつ²⁾の養子となる縁組届出明治四拾参年六月四日受附」

3) 東京都写真美術館(監)、『日本の写真家—近代写真史を彩った人と伝記・作品目録』、東京、日外アソシエーツ、2005年、p.71

4) 越智修・福田静男(監)、『全関西写壇五十年史』、大阪、全日本写真連盟関西本部、1976年、p.320

5) 島岡華水(編)、『写真界』15巻1号、大阪、光画社、1920年、pp.2-3

6) 米谷紅浪、「写壇今昔物語(15)」『写真月報』1937年11月号、p.41

7) 島岡華水(編)、『写真界』16巻1号、大阪、光画社、1921年、p.12

8) 前掲書、「写壇今昔物語(15)」、pp.47-50

9) 虹影写真倶楽部発行の謝状(梅阪鷺里関連資料no.7、梅阪家蔵)による。

10) 大阪朝日新聞社発行の賞状(梅阪鷺里関連資料no.8、梅阪家蔵)による。

11) 前掲書、『全関西写壇五十年史』、p.129

12) 大阪毎日新聞社発行の賞状(梅阪鷺里関連資料no.9、梅阪家蔵)による。

13) 大丸呉服店発行の感謝状(梅阪鷺里関連資料no.10、梅阪家蔵)による。

14) 米谷紅浪、「写壇今昔物語(17)」『写真月報』1938年1月号、p.75、及び浪華写真倶楽部発行の賞状(梅阪鷺里関連資料no.11、梅阪家蔵)による。

受賞する¹⁵⁾。

- 11月 第1回天弓会展に《雪国》、《高原初冬》、《霧の朝》、《里の雪》、《池畔》(いずれもサイズ・技法不詳)を出品¹⁶⁾。福原信三が「天弓会同人写真展覧会を観る」の中で、「西井、梅阪、福森、森氏等の個々については定評があるし、(中略)横山、梶原、米谷諸氏のゴム、西井、梅阪、福森氏等のプロモイルに於ける卓越せる技能は愛友倶楽部の諸氏と共に斯界に覇を称へるものである。」¹⁷⁾と述べており、梅阪がプロムオイル印画で一定の評価を受けていた写真家であったことを窺わせる。

1923 (大正12)

- 4月 大阪朝日新聞社主催第2回優秀印画展に《雪の花》(サイズ・技法不詳)を出品¹⁸⁾。
第12回東京写真研究会展に《裾野の冬》(半切・プロムオイル印画)、《怒涛》(半切・プロムオイル印画)を出品し、《裾野の冬》が会員外の部4等を受賞する¹⁹⁾。
- 6月3日 東京写真研究会が初の大阪展観に際して、今橋ホテルで開いた懇親会に出席²⁰⁾。記録上、秋山轍輔、小野隆太郎ら関東の写真家と初めて交流を持った機会となる。
- 7月 第12回浪華写真倶楽部展に《越路の初冬》(半切・ゴム印画)を出品、第1部特選1席を受賞する²¹⁾。
- 8月 浪華写真倶楽部が銀座資生堂で初の東京展観を行う。これに際して梅阪は、東京へ初上京する²²⁾。

1924 (大正13)

- 4月 第2回天弓会展に《霧深き朝》、《黒姫山の麓》、《麓の秋》、《船着場》(いずれもサイズ・技法不詳)などを出品²³⁾。
- 7月 第13回浪華写真倶楽部展に《少女》、《早春の光》(いずれもサイズ・技法不詳)を出品²⁴⁾。
- 9月 浪華写真倶楽部東京展に《少女》(サイズ・技法不詳)を出品²⁵⁾。
- 11月 第3回天弓会展に《深山紅葉二題》、《雪国の印象》、《煙の都》、《山里雪晴》(いずれもサイズ・技法不詳)を出品²⁶⁾。森一兵が「第2回天弓会展同人評」の中で「梅阪鶯里子^{マツ}のゴム三、オイル一、プロ一、ゴムの技法は益々練熟して美しいもので隅から隅まで手が届いている」²⁷⁾と評価している。ゴム印画による作品の評価が、この頃から高まっていったと考えられる。

1925 (大正14)

- 2月15日 天弓会同人発起の「玉村騎兵慰卸藉野外撮影会」に参加(尾張知多半島亀崎)²⁸⁾。
- 4月18日 東京写真研究会大阪展観に際し開かれた懇親会に出席(灘万ホテル)²⁹⁾。
- 4月19日 浪華写真倶楽部・東京写真研究会合同撮影会に参加(奈良公園)³⁰⁾。

15) 前掲書、「写壇今昔物語(17)」、p.79

16) 前掲書、「写壇今昔物語(17)」、p.80

17) 本引用は原典にあたることができなかつたため、前掲書、「写壇今昔物語(17)」、pp.83-84より引用した。

18) 大阪朝日新聞社発行の賞状(梅阪鶯里関連資料no.12、梅阪家蔵)による。

19) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1923年5月号、東京、写真月報社、p.38

20) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1923年7月号、東京、写真月報社、pp.60-62

21) 前掲書、「写壇今昔物語(18)」、p.53、及び浪華写真倶楽部発行の賞状(梅阪鶯里関連資料no.13、梅阪家蔵)による。

22) 前掲書、「写壇今昔物語(18)」、p.59-60

23) 米谷紅浪、「写壇今昔物語(19)」「写真月報」1938年3月号、p.58

24) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1924年8月号、東京、写真月報社、p.78

25) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1924年10月号、p.69。同年7月に開催された第13回浪華写真倶楽部展に出品された《少女》と同一作品であるかについては不詳である。

26) 前掲書、「写壇今昔物語(19)」、p.66

27) 本引用は原典にあたることができなかつたため、前掲書、「写壇今昔物語(18)」、p.59より引用した。

28) 前掲書、「写壇今昔物語(19)」、p.68

29) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1925年5月号、東京、写真月報社、p.67-68

30) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1925年5月号、東京、写真月報社、p.70-71

- 5月 第14回浪華写真倶楽部展に、《新緑》(半切・ゴム印画)が特選2席を受賞する³¹⁾。
- 7月 『日本写真年鑑第一年版』に《早春》が掲載される³²⁾。
- 11月 浪華写真倶楽部東京展に《早春》、《高石の浜》、《新緑の古都》、《山路》(いずれもサイズ・技法不詳)を出品³³⁾。
- 11月 第4回天弓会展に《山岳の雨》、《朝の海》、《春の朝》(いずれもサイズ・技法不詳)を出品³⁴⁾。
- 11月 浪華写真倶楽部、東京写真研究会、愛友写真倶楽部、静岡玄光社による静岡での合同撮影会に参加³⁵⁾。

1926 (大正15)

- 1月7日 大阪ホテルで小野隆太郎が開催した、グリュエ印画の研究会合に参加³⁶⁾。
- 3月 全関西写真連盟主催第1回展覧会の審査員を務める。他には米谷紅浪、淵上白陽、森白洋らが審査員を務めた³⁷⁾。
- 5月 第1回日本写真美術展に《夜網》(全紙・ゴム印画)、《薫る風》(サイズ・技法不詳)を出品し、《夜網》が第1部第1科推薦(本社推薦賞・オリエント賞)を受賞、《薫る風》が入選³⁸⁾。
- 5月 第15回浪華写真倶楽部展で《湖畔の秋》(サイズ不詳・ゴム印画)が特選を受賞³⁹⁾。
- 6月 『日本写真年鑑第二年版』に《秋の山》(サイズ・技法不詳)が掲載される⁴⁰⁾。
- 11月 全関西写真連盟主催第1回写真大サロンに《芦》(サイズ不詳・ゴム印画)、《春雨》(サイズ・技法不詳)を出品。《芦》が特選1席を受賞、《春雨》が入選⁴¹⁾。

1927 (昭和2)

- 1月 『アサヒカメラ』1月号に《芦》が掲載される⁴²⁾。
- 5月 『第一回写真大サロン』に《芦》が掲載される⁴³⁾。
- 5月 全日本写真連盟主催第1回国際写真サロンに《冬枯》(290×395mm・ゴム印画)出品⁴⁴⁾。
第16回浪華写真倶楽部展開催。毎年出品していたが、この年は未出品⁴⁵⁾。
第2回日本写真美術展に《暁靄》(全紙・ゴム印画)、《山雨》(サイズ・技法不詳)を出品。《暁靄》が第1部第1科の最高賞である文部大臣賞を受賞⁴⁶⁾。
- 6月 『第一回国際写真サロン』に《冬枯》が掲載される⁴⁷⁾。

31) 米谷紅浪、「写壇今昔物語 (20)」「写真月報」1938年4月号、東京、写真月報社、p.64

32) 成沢金兵衛(編)、『日本写真年鑑第一年版』、東京、大阪、東京朝日新聞社、大阪朝日新聞社、1925年、p.8

33) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1925年12月号、東京、写真月報社、p.88

34) 前掲書、「写壇今昔物語 (20)」、p.72-73

35) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1926年1月号、東京、写真月報社、p.66-67

36) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1926年2月号、東京、写真月報社、p.73

37) 秋山轍輔(編)、『写真月報』、1926年4月号、東京、写真月報社、p.86、及び全関西写真連盟発行の委託状(梅阪鶯里関係資料no.14)による。

38) 『大阪毎日新聞』1926年5月1日号、秋山轍輔(編)、『写真月報』1926年6月号、東京、写真月報社、p.56、及び日本写真美術展覧会発行の賞状(梅阪鶯里関係資料no.15,16、梅阪家蔵)による。尚、この後に刊行された淵上白陽(編)、『日本写真美術年鑑第一年版』、神戸、日本写真美術年鑑刊行会、1926年、p.57に《夜網》が掲載されているが、本調査では国立国会図書館所蔵のマイクロフィッシュ資料での確認となり、同資料には奥付がないため、刊行月を特定することができなかった。

39) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1926年8月号、東京、写真月報社、p.80、及び浪華写真倶楽部発行の賞状(梅阪鶯里関係資料no.17、梅阪家蔵)による。上に挙げた『写真月報』の記録ではプロムオイル印画となっているが、賞状にはゴム印画と記されている。

40) 成沢金兵衛(編)、『日本写真年鑑第二年版』、東京、大阪、東京朝日新聞、大阪朝日新聞、1926年、p.53

41) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1926年12月号、東京、写真月報社、p.88、及び賞状(梅阪鶯里関係資料no.18-21、梅阪家蔵)による。

42) 成沢金兵衛(編)、『アサヒカメラ』1927年1月号、東京、大阪、東京朝日新聞社、大阪朝日新聞社、p.5

43) 鎌田敬四郎(編)、『第一回写真大サロン』、大阪、朝日新聞社、1927年、p.1

44) 星野辰夫(編)、『第一回国際写真サロン』、東京、大阪、東京朝日新聞社、大阪朝日新聞社、1927年、p.69

45) 米谷紅浪、「写壇今昔物語 (25)」「写真月報」1938年11月号、p.48の中で米谷紅浪は「玉村騎兵、梅阪鶯里、辰巳孝友、都路再清、諸君の名前を逸したるは実に物淋しい限りであつた。」と述べている。

46) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1927年6月号、東京、写真月報社、p.56、及び賞状(梅阪鶯里関係資料no.22,23)による。

47) 前掲書、『第一回国際写真サロン』、p.69

- 10月24日 愛友写真倶楽部大阪展観に際して開かれた茶話会に参加（大阪市西区信濃橋日信ビルディング7階）⁴⁸⁾。
 11月 第2回日本写真大サロンで《炎天》（半切・ゴム印画）が特選を受賞⁴⁹⁾。
 秋頃、銀鈴社の結成が計画される。

1928（昭和3）

- 1月 安井仲治、米谷紅浪、望月芦都と結成した銀鈴社第1回展に《海浜風景》（キャビネ・ゴム印画）、《戸隠街道所見》（四切・ブROMオイル印画）、《凧》（四切・ゴム印画）、《若葉の頃》（半切・ゴム印画）、《柿》（半切・ゴム印画）、《朝顔》（半切・ゴム印画）、《三保の浦》（半切・ゴム印画）、《きび》（半切・ゴム印画）、《竹林朝靄》（半切・ゴム印画）、《冬の日》（半切・ゴム印画）、《今宵の名残》（半切・ゴム印画）、《温室》（半切・ゴム印画）、《閑寂》（半切・ゴム印画）、《吉田山》（半切・ゴム印画）、《雪》（全紙・ゴム印画）を出品⁵⁰⁾。
 『アサヒカメラ』1月号に《炎天》（311×411mm・ゴム印画）が掲載される⁵¹⁾。
 2月 浪華写真倶楽部創立25周年記念展に《コスモス》（四切・ゴム印画）出品⁵²⁾。
 3月 『日本写真大サロン【昭和2年度】』に《炎天》（半切・ゴム印画）が掲載される⁵³⁾。
 4月 『写真月報』4月号に《きび》（サイズ・ゴム印画）が掲載される⁵⁴⁾。
 5月 第2回国際写真サロンの委員を務める⁵⁵⁾。
 第17回浪華写真倶楽部展開催。未出品⁵⁶⁾。
 6月 『日本写真年鑑第四年版』（出典）に《温室》（386×328mm・ゴム印画）が掲載される⁵⁷⁾。
 8月 大阪誠友写真会第6回展覧会の審査員を務める⁵⁸⁾。
 9月23日 東京写真研究会大阪展観に際し開かれた懇親会に出席（京堀橋京ビル6階）⁵⁹⁾。

1929（昭和4）

- 1月 浪華写真倶楽部を退会する⁶⁰⁾。
 2月 第2回銀鈴社展に《白椿》、《麦》、《寒村》、《伊吹》、《富岳》、《雪の日》、《あきざくら》、《華厳》、《帰帆》、《信濃路》（いずれもサイズ・技法不詳）など18点を出品⁶¹⁾。
 2月14日 研友会主催第1回実験会（カーボンプロセス）に参加（研友会事務所）⁶²⁾。
 3月 銀鈴社東京展観に《麦》（四切・ゴム印画）、《竹林朝靄》（半切・ゴム印画）、《雪》（全紙・ゴム印画）、《信濃路》（キャビネ・ゴム印画）、《寒村》（半切・ゴム画）、《帰帆》（全紙・ゴム印画）、《冬の日》（半切・ゴム印画）、《きび》（半切・ゴム印画）、《白椿》（四切・ゴム印画）、《あきざくら》（半切・ゴム印画）、《今宵の名残》（半切・ゴム印画）、《三保の浦》（半切・ゴム印画）、《凧》（四切・ゴム印画）、《朝顔》（半切・ゴム印画）、《柿》（半切・

48) 秋山轍輔（編）、『写真月報』、1927年12月号、東京、写真月報社、p.71-72

49) 鎌田敬四郎（編）、『日本写真大サロン【昭和2年度】』、大阪、朝日新聞社、p.5、前掲書、「写壇今昔物語（25）」、p.53、及び全関西写真連盟発行の賞状（梅阪鶯里関係資料no.24による）

50) 秋山轍輔（編）、『写真月報』1928年3月号、東京、写真月報社、p.83

51) 成沢金兵衛（編）、『アサヒカメラ』1928年1月号、東京、大阪、東京朝日新聞社、大阪朝日新聞社、p.14

52) 前掲書、『写真月報』1928年3月号、p.88

53) 前掲書、『日本写真大サロン【昭和2年度】』、p.5

54) 秋山轍輔（編）、『写真月報』1928年4月号、東京、写真月報社、挿画

55) 秋山轍輔（編）、『写真月報』1928年1月号、東京、写真月報社、p.100

56) 秋山轍輔（編）、『写真月報』1928年7月号、東京、写真月報社、pp.77-80

57) 成沢金兵衛（編）、『日本写真年鑑第四年版』、東京、大阪、東京朝日新聞社、大阪朝日新聞社、1928年、p.23

58) 秋山轍輔（編）、『写真月報』1928年8月号、東京、写真月報社、p.69-70

59) 秋山轍輔（編）、『写真月報』1928年11月号、東京、写真月報社、p.77-79

60) 田中翔介（編）、『関西写真家たちの軌跡100年』、関西写真家たちの軌跡実行委員会、2007年、p.169

61) 前掲書、「写壇今昔物語（25）」、p.58

62) 秋山轍輔（編）、『写真月報』1929年3月号、東京、写真月報社、pp.71-72

- ゴム印画)、《冬の日》(半切・ゴム印画)、《瀑布》(全紙・プロムオイル印画)を出品⁶³⁾。
- 5月 『写真月報』5月号に《白椿》が掲載される⁶⁴⁾。
- 5月18日 東京写真研究会大阪展観に際して開かれた懇親会に参加(大阪天満橋・野田屋宴会場)⁶⁵⁾。
- 8月 『写真月報』8月号に「研展大阪展を見る」を寄稿(安井仲治との共著)⁶⁶⁾。
- 9月 『写真月報』9月号に《帰帆》が掲載される⁶⁷⁾。
- 秋頃 鶴殿霞汀の幹旋で、米谷紅浪、安井仲治、望月芦都らと法隆寺、中宮寺、秋篠寺などの撮影旅行へ出かける⁶⁸⁾。
- 12月 『日本写真年鑑第五年版』に《雪の日》(418×275mm・ゴム印画)が掲載される⁶⁹⁾。
- 1930(昭和5)**
- 1月 『写真月報』1月号に《梅》(四切・ゴム印画)が掲載される⁷⁰⁾。
- 5月 第3回銀鈴社展、同東京展に《山ふところ》(全紙・ゴム印画)、《雪景》(全紙・ゴム印画)、《暮靄》(全紙・ゴム印画)、《雪山薄暮》(全紙・ゴム印画)、《宵月》(全紙・ゴム印画)、《鯉轍》(半切・ゴム印画)、《唐瓜》(半切・ゴム印画)、《秋空》(半切・ゴム印画)、《雪中山村》(半切・ゴム印画)、《中宮寺本堂正面額》(半切・ゴム印画)、《中宮寺如意輪観音半跏像》(半切・ゴム印画)、《中宮寺天寿国曼陀羅》(半切・ゴム印画)、《法隆寺聖観音立像》(半切・ゴム印画)、《訪春》(四切・ゴム印画)、《嵐山雨情》(四切・ゴム印画)、《桔梗》(四切・ゴム印画)、《肖像》(四切・ゴム印画)、《肖像》(四切・ゴム印画)、《年越》(四切・ゴム印画)を出品⁷¹⁾。
- 7月 『写真月報』7月号に《鯉轍》が掲載される⁷²⁾。
- 『アサヒカメラ』7月号に《唐瓜》(390×358・プロマイド)が掲載される⁷³⁾。
- 9月 東京写真研究会大阪展観に際して開かれた懇親会に出席(大阪ビル)。
- 11月 『写真月報』11月号に《雪山薄暮》(半切・ゴム印画)が掲載される⁷⁴⁾。
- 第5回日本写真美術展に《月明懐古》、《翁咲き》(いずれもサイズ・技法不詳)を無鑑査出品⁷⁵⁾。
- 12月 『日本写真年鑑第六年版』に《年越》(183×195mm・ゴム印画)が掲載される⁷⁶⁾。
- 1931(昭和6)**
- 4月2日 鶴殿霞汀、鶴殿輝子、安井仲治、玉井一葉、深川龍太郎、と神戸で白日会を結成⁷⁷⁾。
- 5月1日 白日会第2回例会に出席⁷⁸⁾。
- 5月 第5回国際写真サロンに《水仙》(サイズ不詳・ゴム印画)を出品⁷⁹⁾。
- 6月5日 白日会第3回例会に出席。梅阪の主唱で会員同士の作品批評を行う⁸⁰⁾。

63) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1929年4月号、東京、写真月報社、pp.59-60

64) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1929年5月号、東京、写真月報社、挿画

65) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1929年6月号、東京、写真月報社、pp.60-61

66) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1929年8月号、東京、写真月報社、pp.52-60

67) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1929年9月号、東京、写真月報社、挿画

68) 米谷紅浪、「写壇今昔物語(30)」『写真月報』1939年4月号、pp.48-49

69) 成沢金兵衛(編)、『日本写真年鑑第五年版』、東京、大阪、東京朝日新聞社、大阪朝日新聞社、1929年、p.15

70) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1930年1月号、東京、写真月報社、挿画

71) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1930年6月号、東京、写真月報社、pp.103-104

72) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1930年7月号、東京、写真月報社、挿画

73) 成沢金兵衛(編)、『アサヒカメラ』1930年7月号、東京、大阪、東京朝日新聞社、大阪朝日新聞社、p.5。尚、「銀鈴社第三回展作」と記されているため、技法のプロマイドは誤植であると考えられる。

74) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1930年11月号、東京、写真月報社、挿画

75) 大阪毎日新聞社(編)、『日本写真美術年鑑昭和五年度』、大阪、大阪毎日新聞社、1931年、p.32

76) 成沢金兵衛(編)、『日本写真年鑑第六年版』、東京、大阪、東京朝日新聞、大阪朝日新聞、1930年、p.18

77) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1931年5月号、東京、写真月報社、p.84

78) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1931年7月号、東京、写真月報社、p.93

79) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1931年5月号、東京、写真月報社、p.74、及び《水仙》の台紙(梅阪鷺里関連資料no.1、梅阪家蔵)による。

80) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1931年8月号、東京、写真月報社、pp.67-68

- 11月 第6回日本写真美術展に《芍薬》(サイズ・技法不詳)を無鑑査出品⁸¹⁾。
- 12月 『日本写真年鑑第七年版』に《女》(232×238mm・ゴム印画)掲載が掲載される⁸²⁾。

1932 (昭和7)

- 5月 第6回国際写真サロンに《梅》を出品⁸³⁾。
第21回東京写真研究会展第2部に《明月》(半切・ゴム印画)、《十一面観音》(半切・ゴム印画)を出品⁸⁴⁾。
- 7月 『研展画集第二十三編』に《十一面観音》(半切・ゴム印画)が掲載される⁸⁵⁾。
- 9月 『写真月報』9月号に《明月》(半切・ゴム印画)が掲載される⁸⁶⁾。
- 10月 『アサヒカメラ』10月号に《明月》(サイズ・技法不詳)が掲載される⁸⁷⁾。

1933 (昭和8)

- 7月 『写真月報』7月号に妹・梅阪道子のゴム印画作品《茨》(四切・ゴム印画)が掲載される⁸⁸⁾。
- 11月3日 大阪市西区京町堀の京町堀ビルヂング2階に写真館を開業⁸⁹⁾。
- 11月 第7回日本写真美術展に《雨後》、《八重桜》(いずれもサイズ・技法不詳)を無鑑査出品⁹⁰⁾。

1934 (昭和9)

- 9月 『写真月報』9月号に「第二十三回研展短評」を寄稿⁹¹⁾。
- 11月 第8回日本写真美術展に《雪山山水》、《紫陽花》(いずれもサイズ・技法不詳)を出品⁹²⁾。

1935 (昭和10)

- 11月 第9回日本写真美術展に《二見浦》、《徳高》(いずれもサイズ・技法不詳)を無鑑査出品⁹³⁾。

1936 (昭和11)

- 7月 東京・小石川でお琴の教師をしていた池田つたと結婚。つたは1918(大正7)年2月9日生まれで、鶯里よりも18歳年下であった。つたの母・ヨシと、鶯里の養母まつが親しい関係にあったという⁹⁴⁾。
『写真月報』7月号に「第二十五回研展短評」を寄稿⁹⁵⁾。

1937 (昭和12)

- 11月 第9回日本写真美術展に《梅花》(サイズ・技法不詳)を無鑑査出品⁹⁶⁾。

1938 (昭和13)

- 2月 『写真月報』2月号に「第11回日本写真美術展を見て」を寄稿⁹⁷⁾。

81) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1931年12月号、東京、写真月報社、p.67、及び『鶯里画集』(四切)目録による。

82) 成沢金兵衛(編)、『日本写真年鑑第七年版』、東京、大阪、東京朝日新聞、大阪朝日新聞、1931年、p.17

83) 大阪朝日新聞社発行の賞状(梅阪鶯里関連資料no.26、梅阪家蔵)による。

84) 秋山轍輔(編)、『研展画集第二十三編』、東京、東京写真研究会、1932年、p.11

85) 前掲書、『研展画集第二十三編』、頁数なし

86) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1932年2月号、東京、写真月報社、挿画

87) 成沢金兵衛(編)、『アサヒカメラ』1932年10月号、東京、大阪、東京朝日新聞社、大阪朝日新聞社、p.377

88) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1932年7月号、東京、写真月報社、挿画。尚、作者の梅阪道子が鶯里の妹であることは、『写真月報』1932年6月号、p.87の婦人写真団体卯月会に関する記事に示されている。

89) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1934年1月号、東京、写真月報社、p.116

90) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1933年12月号、東京、写真月報社、p.81

91) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1934年9月号、東京、写真月報社、pp.44-46

92) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1934年12月号、東京、写真月報社、p.87

93) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1936年1月号、東京、写真月報社、p.167

94) 婚姻関係の事実、及びつたの生年月日に関する記述は戸籍謄本記載による。

95) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1936年7月号、東京、写真月報社、pp.103-105

96) 『鶯里画集』(四切)目録(no.27)による。

97) 秋山轍輔(編)、『写真月報』1938年2月号、東京、写真月報社、pp.93-94

1942（昭和17）

1月 第15回日本写真美術展に《菊花》を無鑑査出品⁹⁸⁾。

1958（昭和33）

10月 浪華写真倶楽部創立55周年記念、第43回浪華写真倶楽部展に出品⁹⁹⁾。

1966（昭和41）

浪華写真倶楽部60周年記念画集『浪』に巻頭言を寄せる¹⁰⁰⁾。

1968（昭和43）

6月 日本写真家協会主催「写真100年」展に《雨後》、《芍薬》、《炎天》（いずれもサイズ・技法不詳）を出品¹⁰¹⁾。

1970（昭和45）

3月16日 大阪市大淀区長柄西通1丁目19番地で肺炎により逝去¹⁰²⁾。

98) 『鶯里画集』（半切）目録（no.24）による。

99) 浪華写真倶楽部（編）、『「浪展」浪華写真倶楽部100周年記念』、大阪、浪華写真倶楽部、2005年、p.176

100) 浪華写真倶楽部（編）、『浪』、大阪、浪華写真倶楽部、1966年

101) 渡辺義雄（編）、『写真100年 - 日本人による写真表現の歴史展 - 』、東京、日本写真家協会、1968年に示された出品目録による。

102) 戸籍謄本記載による。死因については梅阪和子氏による。

■参考文献

梅阪鶯里についての記述がある文献、及び作品が掲載されている文献については*を付けた。

1. 〈参考図書〉

a. 百科事典

『世界大百科事典』、東京、平凡社、(1985) 2007年、全34巻

b. 美術事典

秋山光和 他 (編)、『新潮世界美術大事典』、東京、新潮社、1985年

TURNER (Jane) (ed.), *The Dictionary of Art*, New York, Grove 1996, 34 vols.

多木浩二・藤枝晃雄 (監)、『日本近現代美術史事典』、東京、東京書籍、2007年

c. 写真事典

上田貞治郎 (編)、『写真術百科大辞典』、大阪、上田写真機店、1920年

CAPA (Cornell) (ed.), *Encyclopedia of Photography*, New York, Crown, 1984

d. 人物事典

『大阪現代人名辞書』、大阪、文明社、1913年; 復刻版・『大阪人名資料事典』、東京、日本図書センター、2003年、全4巻のうち1、2巻

上田正昭・西澤潤一・平山郁夫・三浦朱門 (監)、『日本人名大辞典』、東京、講談社、2001年*

e. 人物事典 (写真)

東京都写真美術館 (編)、『日本写真家事典』、京都、東京、淡交社、2000年*

東京都写真美術館 (監)、『日本の写真家 - 近代写真史を彩った人と伝記・作品目録』、東京、日外アソシエーツ、2005年*

f. 写真史概説

日本写真家協会 (編)、『日本写真史1840-1945』、東京、平凡社、1971年*

小西六写真工業株式会社社史編纂室 (編)、『写真とともに百年』、東京、小西六写真工業株式会社、1973年

日本光学機器検査協会歴史のカメラ審査委員会 (編)、『日本カメラの歴史』、東京、毎日新聞社、1975年、全2巻

越智修・福田静男 (監)、『全関西写壇五十年史』、大阪、全日本写真連盟関西本部、1976年*

日本写真協会 (編)、『日本写真史年表1778～1975.9』、東京、講談社、1976年

金丸重嶺、『写真芸術』、東京、朝日新聞社、1979年

長野重一・飯沢耕太郎・木下直之 (編)、『日本の写真家 別巻 日本写真史概説』、東京、岩波書店、1999年

Museum of Fine Arts, Houston (ed.), *The History of Japanese Photography*, New Haven, London, Yale University Press, 2003

藤村里美、『写真の歴史入門 第二部「創造」モダンエイジの開幕』、東京、新潮社、2005年*

2. 〈個別資料〉

a. 写真年鑑

成沢金兵衛 (編)、『日本写真年鑑第一年版』、東京・大阪、東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1925年*

成沢金兵衛 (編)、『日本写真年鑑第二年版』、東京・大阪、東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1926年*

淵上白陽 (編)、『日本写真美術年鑑第一年版』、神戸、日本写真美術年鑑刊行会、1926年*

鎌田敬四郎 (編)、『第一回写真大サロン』、大阪、朝日新聞社、1927年*

成沢金兵衛（編）、『日本写真年鑑第三年版』、東京・大阪、東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1927年
 星野辰夫（編）、『第一回国際写真サロン』、東京・大阪、東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1927年*
 鎌田敬四郎（編）、『日本写真大サロン【昭和二年度】』、大阪、朝日新聞社、1928年*
 成沢金兵衛（編）、『日本写真年鑑第四年版』、東京・大阪、京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1928年*
 大阪毎日新聞社（編）、『日本写真美術年鑑昭和三年度』、大阪、大阪毎日新聞社、1929年*
 成沢金兵衛（編）、『日本写真年鑑第五年版』、東京・大阪、東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1929年*
 大阪毎日新聞社（編）、『日本写真美術年鑑昭和四年度』、大阪、大阪毎日新聞社、1930年
 成沢金兵衛（編）、『日本写真年鑑第六年版』、東京・大阪、東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1930年*
 大阪毎日新聞社（編）、『日本写真美術年鑑昭和五年度』、大阪、大阪毎日新聞社、1931年*
 成沢金兵衛（編）、『日本写真年鑑第七年版』、東京・大阪、東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1931年*
 成沢金兵衛（編）、『日本写真年鑑昭和九年版』、東京・大阪、東京朝日新聞社・大阪朝日新聞社、1934年
 星野辰夫（編）、『日本写真年鑑1934-1935』、東京、東京朝日新聞社、1935年

b. 「芸術写真」関連

『第二天弓画集』、1921年

『天弓画集』（第3）、大阪、光画社、1923年*

小野隆太郎、『護謨印画法』、東京、小西六本店、1932年

森芳太郎・金丸重嶺、『アルス最新写真大講座 第13巻 新興写真術』、東京、アルス、1936年*

安井仲治、「写真の発達とその芸術的諸相」『新体制国民講座 第十編「芸術編」』、pp.63-120、1942年

上田備山（編）、『安井仲治写真作品集』、京都、便利堂、1942年；復刻版、東京、国書刊行会、2005年

飯沢耕太郎、『「芸術写真」とその時代』、東京、筑摩書房、1984年

飯沢耕太郎、「日本写真史における『芸術写真』の理念の成立」『映像学』29号、pp.17-28、1986年

小沢健志（編）、『日本写真全集2 芸術写真の系譜』、東京、小学館、1986年*

桑原甲子雄（編）、『日本写真全集3 近代写真の群像』、東京、小学館、1986年

中島徳博・横江文憲・高砂三和子（編）、『安井仲治展図録』、東京、西武美術館、1987年

金子隆一・柏木博・伊藤俊治・長谷川明、『日本近代写真の成立』、東京、青弓社、1987年

中島徳博・横江文憲・高砂三和子（編）、『小石清と浪華写真倶楽部』、兵庫、兵庫県立近代美術館、1988年*

神奈川県立近代美術館（編）、『「日本の写真1930年代」展図録』、神奈川、神奈川県立近代美術館、1988年*

Mission du patrimoine photographique (éd.), *La photographie japonaise de l'entre-deux-guerres – Du pictorialisme au modernisme*, Paris, l'Imprimerie Blanchard fils., 1990*

松本徳彦（編）、『A Collection of Japanese Photographs 1912-1940』、東京、写真弘社、1990年*

『日本のピクトリアリズム 風景へのまなざし』、東京、東京都写真美術館、カタログ執筆、金子隆一、1992年*

『モダニズムの時代』、東京、東京都写真美術館、1995年*

『日本近代写真の成立と展開』、東京、東京都写真美術館、1995年*

長野重一・飯沢耕太郎・木下直之（編）、『日本の写真家5 高山正隆と大正ピクトリアリズム』、東京、岩波書店、1998年*

長野重一・飯沢耕太郎・木下直之（編）、『日本の写真家9 安井仲治』、東京、岩波書店、1999年

金子隆一、「芸術写真の成立とモダニティ」『光のノスタルジア—小関庄太郎と日本の芸術写真』、pp.7-9、2001年*

金子隆一（監）、「写真家がとらえた、私たちの美しい日本 第3回 梅阪鷺里の『雪月花』」『和楽』1巻3号、pp.21-23、2001年*

渋谷区立松涛美術館・名古屋市美術館・共同通信社（編）、『生誕百年 安井仲治—写真のすべて』、東京、共同通信社、2004年*

金子隆一、「『絵』か『写真』か？ ピクトリアリズムというモダニティー」『美術手帖』2004年12月号（通巻858号）、pp.33-45、2004年*

飯沢耕太郎、「天才・安井仲治とその周辺『新興写真』の開花と近代都市の揺籃」『美術手帖』2004年12月号（通巻858号）、pp.49-61、2004年
飯沢耕太郎、『都市の視線 日本の写真1920-30年代』、東京、平凡社、2005年
緒川直人、「アマチュア写真家野々村藤助と明治30年代写真史の再検討 - 初期大阪写壇を中心に - 」『文化資源学』5号、pp.63-74、2006年
田中翔介（編）、『関西写真家たちの軌跡100年』、関西写真家たちの軌跡展実行委員会、2007年*
中島徳博、「関西の写真」『関西写真家たちの軌跡100年』、pp.231-255、2007年
PADON (Thomas) (ed.), *Truth Beauty Pictorialism and the Photograph as Art, 1845-1945*, Vancouver, Toronto, Berkeley, Douglas & McIntyre, 2008*
打林俊、「梅阪鷺里考—日本写真美術展出品作品を中心に」『日本写真芸術学会誌』17巻1号、pp.27-41、2008年*
西村智弘、『日本芸術写真史』、東京、美学出版、2008年*

c. 写真技術関係

森芳太郎、『最新実用写真術話』、東京、丸善、(1920) 1922年、全3巻
榊原青葉・石田喜一郎・宮内幸太郎・下津佐正志・飯田政雄、『アルス最新写真大講座 第9巻 特殊印画法』、東京、アルス、1935年
中村道太郎（編）、『最新写真科学大系 第2回 特殊印画法』、東京、新光社、1935年
岡内彰「ゴム写真考」『写真月報』1939年1月号、pp.52-57；2月号、pp.11-16；3月号、pp.45-51；4月号、pp.41-47

d. 写真集・展覧会カタログ

浪華写真倶楽部（編）、『浪』（創立60周年記念画集）、大阪、浪華写真倶楽部、1966年*
渡辺義雄（編）、『写真100年—日本人による写真表現の歴史展』、東京、日本写真家協会、1968年
東京都美術館・山口県立美術館・兵庫県立近代美術館・朝日新聞社（編）、『1920年代・日本展 | 都市の造形とモンタージュ』、東京、朝日新聞社、1988年*
菊池真一（編）、『写真150年・その光と影』、東京、日本大学芸術学部写真学科・東京工芸大学短期大学部、1989年*
下関市立美術館（編）、『写真150年 海の写真名品展図録』、下関、下関市立美術館、1990年*
梅津元・大久保静雄（編）、『「うつすこと」と「見ること」—意識拡大装置—』、埼玉、埼玉県立近代美術館、1994年*
東京都写真美術館（編）、『写真の内なるかたち・外なるかたち 第1部 渡来から1945年まで』、東京、東京都写真美術館、1996年*
大阪市近代美術館（仮称）建設準備室（編）、『美術都市・大阪の発見—近代美術と大阪イズム』、大阪、大阪市教育委員会、1997年*
高瀬晴之（編）、『日本の写真1850's ~ 1945』、姫路、姫路市立美術館・朝日新聞社、1999年*
『写された国宝—日本における文化財写真の系譜』、東京、東京都写真美術館、カタログ執筆、岡塚章子、2000年*
KANEKO (Ryuichi)・MATSUMOTO (Norihiko)・KLOCHKO (Deborah), *Modern Photography in Japan 1915-1940*, San Francisco, The Friends of Photography, 2001*
浪華写真倶楽部（編）、『「浪展」浪華写真倶楽部創立100周年記念』、大阪、浪華写真倶楽部、2005年*
新畑泰秀・松永真太郎（編）、『水の情景—モネ、大観から現代まで』、横浜、横浜美術館、2007年*

e. 美術館所蔵品目録・年報など

横浜美術館（編）、『横浜美術館収蔵品目録Ⅱ [写真]』、横浜、横浜美術館、1989年*
東京都写真美術館（編）、『東京都写真美術館概要』、1993年*
横浜美術館（編）、『横浜美術館年報』、横浜、横浜美術館、1993年～

大阪市立近代美術館（仮称）建設準備室（編）、『大阪市立近代美術館（仮称）建設準備室所蔵作品選Ⅱ』、大阪、大阪市教育委員会、1994年*

大阪市立近代美術館建設準備室（編）、『大阪市立近代美術館（仮称）所蔵作品110選Ⅱ 絵画・写真・デザイン編』、大阪、大阪市教育委員会、2003年*

東京都写真美術館（編）、『東京都写真美術館概要』、2008年*

f. 同時代史

鷺山半之助、『軍機保護法要義』、東京、新光社、1937年

大竹武七、『軍用資源秘密保護法解説』、東京、巖松堂書店、1939年

田玉栄吉（編）、『国防と写真の撮影』、東京、博文館、1941年

日本統制地図株式会社（編）、『軍機保護法』、東京、日本統制地図株式会社、1943年

松本清次、「大正十年頃の中船場の界限」『船場』第4号、大阪、船場の会編集局、1968年

朝日新聞社史編修室（編）、『朝日新聞の九十年』、大阪、朝日新聞社、1969年

松本福太郎（編）、『昭和期の写真業界』、東京、日本写真興業通信社、1971年

毎日新聞百年史刊行委員会（編）、『毎日新聞百年史』、東京、大阪、小倉、名古屋、札幌、毎日新聞社、1972年

南博・社会心理研究所（編）、『大正文化1905-1927』、東京、頸草書房、1987年

南博・社会心理研究所（編）、『昭和文化1925-1945』、東京、頸草書房、1987年

嶋田厚・野田茂徳・田代慶一郎・飯沢耕太郎、『大正感情史』、東京、日本書籍、1979年*

竹村民郎、『大正文化』、東京、講談社、講談社現代新書、1980年

井上和雄（編）、『株式会社三越85年の記録』、東京、株式会社三越、1990年

濱田隆士他（編）、『日本全史』、東京、講談社、1991年

アサヒカメラ（編）、『昭和10～40年代 広告にみる国産カメラの歴史』、東京、朝日新聞社、1994年

g. 日本写真美術展覧会関係新聞記事

『大阪毎日新聞』1926年1月3日号;『大阪毎日新聞』1926年2月15日号;『大阪毎日新聞』1926年3月8日号;『大阪毎日新聞』1926年3月12日号;『大阪毎日新聞』1926年5月1日号;『大阪毎日新聞』1926年3月12日号;『大阪毎日新聞』1927年5月14日号;『大阪毎日新聞』1927年5月18日号;『大阪毎日新聞』1927年5月19日号;『大阪毎日新聞』1927年5月20日号;『大阪毎日新聞』1927年5月24日号

h. 写壇今昔物語

写壇今昔物語は『写真月報』（写真月報社）1936（昭和11）年1月号から1940（昭和15）年2月号に38回に渡って連載された記事である。（1回目、2回目は「写壇むかしものがたり」という名前で連載）以下には、回数・巻号・ページを示す。

*尚、東京都写真美術館図書室が『写真月報』から「写壇今昔物語」のみを合本したものを所蔵している。

1. 昭和11年1月号（41巻1号）、pp.109-119
2. 昭和11年2月号（41巻2号）、pp.75-92
3. 昭和11年3月号（41巻3号）、pp.88-106
4. 昭和11年4月号（41巻4号）、pp.78-96
5. 昭和11年5月号（41巻5号）、pp.104-112
6. 昭和11年7月号（41巻7号）、pp.89-98
7. 昭和11年8月号（41巻8号）、pp.92-106
8. 昭和11年10月号（41巻10号）、pp.86-97
9. 昭和11年12月号（41巻12号）、pp.61-80

10. 昭和12年 3 月号 (42卷 3 号)、 pp.56-73
11. 昭和12年 4 月号 (42卷 4 号)、 pp.41-52
12. 昭和12年 6 月号 (42卷 6 号)、 pp.57-72
13. 昭和12年 8 月号 (42卷 8 号)、 pp.40-53
14. 昭和12年 9 月号 (42卷 9 号)、 pp.48-61
15. 昭和12年11月号 (42卷11号)、 pp.41-56
16. 昭和12年12月号 (42卷12号)、 pp.43-55
17. 昭和13年 1 月号 (43卷 1 号)、 pp.69-86
18. 昭和13年 2 月号 (43卷 2 号)、 pp.49-64
19. 昭和13年 3 月号 (43卷 3 号)、 pp.56-72
20. 昭和13年 4 月号 (43卷 4 号)、 pp.58-73
21. 昭和13年 6 月号 (43卷 6 号)、 pp.51-67
22. 昭和13年 7 月号 (43卷 7 号)、 pp.38-53
23. 昭和13年 9 月号 (43卷 9 号)、 pp.54-69
24. 昭和13年10月号 (43卷10号)、 pp.51-68
25. 昭和13年11月号 (43卷11号)、 pp.48-62
26. 昭和13年12月号 (43卷12号)、 pp.37-50
27. 昭和14年 1 月号 (44卷 1 号)、 pp.58-65
28. 昭和14年 2 月号 (44卷 2 号)、 pp.41-61
29. 昭和14年 3 月号 (44卷 3 号)、 pp.58-69
30. 昭和14年 4 月号 (44卷 4 号)、 pp.48-66
31. 昭和14年 5 月号 (44卷 5 号)、 pp.43-57
32. 昭和14年 6 月号 (44卷 6 号)、 pp.20-32
33. 昭和14年 7 月号 (44卷 7 号)、 pp.30-44
34. 昭和14年 9 月号 (44卷 9 号)、 pp.47-61
35. 昭和14年10月号 (44卷10号)、 pp.48-60
36. 昭和14年12月号 (44卷12号)、 pp.46-61
37. 昭和15年 1 月号 (45卷 1 号)、 pp.42-57
38. 昭和15年 2 月号 (45卷 2 号)、 pp.41-58

i. その他

CALZA (Gian-Carlo), *Japan Style*, London, Phaidon, 2007 *